

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 3 年 9 月 9 日
Date of Application:

出 願 番 号 特 願 2 0 0 3 - 3 1 7 3 8 0
Application Number:
[ST. 10/C] : [J P 2 0 0 3 - 3 1 7 3 8 0]

出 願 人 オリンパス光学工業株式会社
Applicant(s):

2 0 0 3 年 1 0 月 2 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康 夫



【書類名】 特許願
【整理番号】 03P02146
【提出日】 平成15年 9月 9日
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 A61B 19/00
G02B 21/00

【発明者】
【住所又は居所】 東京都渋谷区幡ヶ谷 2丁目 4 3 番 2 号 オリジナル光学工業株式
会社内
【氏名】 大川 敦

【発明者】
【住所又は居所】 東京都渋谷区幡ヶ谷 2丁目 4 3 番 2 号 オリジナル光学工業株式
会社内
【氏名】 堀井 章弘

【発明者】
【住所又は居所】 東京都渋谷区幡ヶ谷 2丁目 4 3 番 2 号 オリジナル光学工業株式
会社内
【氏名】 謝 天宇

【発明者】
【住所又は居所】 東京都渋谷区幡ヶ谷 2丁目 4 3 番 2 号 オリジナル光学工業株式
会社内
【氏名】 原 光博

【特許出願人】
【識別番号】 000000376
【住所又は居所】 東京都渋谷区幡ヶ谷 2丁目 4 3 番 2 号
【氏名又は名称】 オリジナル光学工業株式会社

【代理人】
【識別番号】 100076233
【弁理士】
【氏名又は名称】 伊藤 進

【先の出願に基づく優先権主張】
【出願番号】 特願2002-290410
【出願日】 平成14年10月 2日

【手数料の表示】
【予納台帳番号】 013387
【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】
【物件名】 特許請求の範囲 1
【物件名】 明細書 1
【物件名】 図面 1
【物件名】 要約書 1
【包括委任状番号】 9101363

【書類名】 特許請求の範囲**【請求項 1】**

光源と、

前記光源から出射された光束を対象物に対し走査する少なくとも 1 つ以上のスキャニング手段と、

前記スキャニング手段を駆動しタイミング信号を発生する信号発生手段と、

前記光源からの光を対象物に照射し、前記対象物からの戻り光を受光する光学系と、

前記光学系が受光した光を受け電気信号に変換する光電変換手段と、

前記光電変換手段から電気信号をデジタルデータに変換する A/D 変換器と、

前記 A/D 変換器からのデジタルデータを記録するメモリと、

前記メモリに保存されたデータを変換し画像を生成する画像生成手段と、

前記画像生成手段が生成する画像を表示するモニタと、

前記画像生成手段が生成する画像を保存する保存手段と、

前記画像生成手段が生成する画像と共に前記モニタ上に表示される、表示および保存方法を決定づける表示保存パラメータを選択可能に設定する表示保存選択手段と、

前記表示保存パラメータを元に前記光源と前記画像生成手段と前記保存手段のうちの少なくともいずれか一つ以上を制御して表示および保存を実行する制御手段と、

を有することを特徴とする光走査型観察装置。

【請求項 2】

前記表示保存パラメータは、

少なくとも特定の画像を表示および／あるいは保存する表示保存モードと、

表示および／あるいは保存する対象となる、前記画像生成手段が生成する画像を特定するための選択基準と、

前記画像生成手段が生成する画像と共に保存される前記画像以外のデータを特定するための同時保存データと、

前記画像生成手段が生成する画像をいずれのタイミングで保存するかを決定付けるための保存タイミングと、

前記画像生成手段が生成する画像のブレを補正するか否かを決定付けるブレ補正と、

の少なくともいずれか一つ以上からなることを特徴とする、前記請求項 1 に記載の光走査型観察装置。

【書類名】明細書

【発明の名称】光走査型観察装置

【技術分野】

【0001】

本発明は、光を走査することにより、観察像を得る光走査型観察装置に関する。

【背景技術】

【0002】

近年、共焦点の関係を利用して光を2次元的に走査する等して顕微鏡像等を得る光走査型観察装置が例えば、特開2000-75210号公報や、特表2001-512606号公報、特開2001-356273号公報に開示されている。

上記第1の公報では、小型化して、顕微鏡像を得る装置を開示しており、また第2の公報では画像保存をする機能も開示しており、第3の公報では歪みの少ない画像を得る構成を開示している。

【特許文献1】特開2000-75210号公報

【特許文献2】特表2001-512606号公報

【特許文献3】特開2001-356273号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

このような光走査型観察装置では、焦点が合った状態の光学像を表示する場合もあるが、焦点が合っていない状態での光学像が表示される場合も多くある。このため、画像保存をする場合、第2の公報に開示された場合のような機能では、所望とする画像を記録することができない欠点があった。

例えば、第2の公報に開示された場合のような機能では、焦点が合っていない画像を多く含む画像を記録し、その記録画像から焦点が合った画像を抽出等する編集の作業が面倒になったり、所定領域の画像部分を抽出したり、適度の輝度レベルを持った画像を抽出しようとした場合、編集することが必要となり、かつその場合の作業に手間がかかる等の欠点があった。

つまり、従来例では所望とする画像を効率良く記録できないため、編集等して所望とする画像を抽出する作業が必要となり、操作性が低かった。

【0004】

(発明の目的)

本発明は、上述した点に鑑みてなされたもので、操作性の良い画像記録ができる光走査型観察装置を提供することを目的とする。

また、不要な画像を減らし、記録される画像のファイリング容量を少なくできる光走査型観察装置を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0005】

光源と、

前記光源から出射された光束を対象物に対し走査する少なくとも1つ以上のスキャニング手段と、

前記スキャニング手段を駆動しタイミング信号を発生する信号発生手段と、

前記光源からの光を対象物に照射し、前記対象物からの戻り光を受光する光学系と、

前記光学系が受光した光を受け電気信号に変換する光電変換手段と、

前記光電変換手段から電気信号をデジタルデータに変換するAD変換器と、

前記AD変換器からのデジタルデータを記録するメモリと、

前記メモリに保存されたデータを変換し画像を生成する画像生成手段と、

前記画像生成手段が生成する画像を表示するモニタと、

前記画像生成手段が生成する画像を保存する保存手段と、

前記画像生成手段が生成する画像と共に前記モニタ上に表示される、表示および保存方

法を決定づける表示保存パラメータを選択可能に設定する表示保存選択手段と、

前記表示保存パラメータを元に前記光源と前記画像生成手段と前記保存手段のうちの少なくともいずれか一つ以上を制御して表示および保存を実行する制御手段と、

を具備することにより、表示保存選択手段により表示保存パラメータを選択設定することによりモニタに表示される画像や保存手段に保存される画像を制御でき、効率良く所望とする画像を保存等でき、操作性を向上している。

【発明の効果】

【0006】

本発明によれば、光源と、

前記光源から出射された光束を対象物に対し走査する少なくとも1つ以上のスキャンング手段と、

前記スキャンング手段を駆動しタイミング信号を発生する信号発生手段と、

前記光源からの光を対象物に照射し、前記対象物からの戻り光を受光する光学系と、

前記光学系が受光した光を受け電気信号に変換する光電変換手段と、

前記光電変換手段から電気信号をデジタルデータに変換するAD変換器と、

前記AD変換器からのデジタルデータを記録するメモリと、

前記メモリに保存されたデータを変換し画像を生成する画像生成手段と、

前記画像生成手段が生成する画像を表示するモニタと、

前記画像生成手段が生成する画像を保存する保存手段と、

前記画像生成手段が生成する画像と共に前記モニタ上に表示される、表示および保存方法を決定づける表示保存パラメータを選択可能に設定する表示保存選択手段と、

前記表示保存パラメータを元に前記光源と前記画像生成手段と前記保存手段のうちの少なくともいずれか一つ以上を制御して表示および保存を実行する制御手段と、

を具備しているので、表示保存選択手段により表示保存パラメータを選択設定することによりモニタに表示される画像や保存手段に保存される画像を制御でき、効率良く所望とする画像を保存等でき、操作性を向上できる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0007】

以下、図面を参照して本発明の実施の形態を説明する。

(第1の実施の形態)

図1ないし図23は本発明の第1の実施の形態に係り、図1は本発明の第1の実施の形態の光走査型観察装置の全体構成を示し、図2はモニタの表示例を示し、図3は表示基準として領域基準とした場合の領域決定方法の説明図を示し、図4は表示/保存方法の設定から表示/保存処理までの全体の処理内容を示し、図5は表示保存モードの設定の処理内容を示し、図6は選択基準の設定の処理内容を示し、図7は領域の設定処理の処理内容を示し、図8はタイミングの設定の処理内容を示し、図9は同時保存データの設定処理の処理内容を示し、図10は各種のパラメータの設定により特定画像の表示や保存が選択設定できるパターンを示し、図11は表示保存モードが特定画像表示保存、選択基準が輝度(輝度値は150)、大きさが無効(OFF)、タイミングがスキャン、ブレ補正が無効(OFF)、同時保存データが通常内視鏡像及びスケールの場合の表示/保存処理の処理内容を示し、図12は選択基準が輝度の場合の信号処理回路の構成を示し、図13はタイミングがスキャンの場合の表示&保存開始/停止のタイミングチャートを示し、図14は図11のパラメータの設定において、大きさのパラメータをONにした場合の処理内容を示し、図15は表示保存モードが特定画像表示全画像保存、選択基準が領域、タイミングがフリーズ(静止画像表示)、ブレ補正が無効(OFF)、同時保存データがテキストの場合の処理内容を示し、図16は図15の動作の場合のタイミングチャートを示し、図17は表示保存モードが全画像表示特定画像保存、選択基準がフレーム、指定フレーム数が1-50フレーム、タイミングがフリーズ前後(タイミング位置は-10)、ブレ補正が無効(OFF)、同時保存データがカーソルの場合の処理内容を示し、図18は図17の場合のフリーズ前後の場合の表示&保存開始のタイミングチャートを示し、図19はフリー

ズ前後の場合の保存対象となるデータを示し、図20は表示保存モードが特定画像表示保存、選択基準が時間、指定時間が1000msec、タイミングがレーザ、ブレ補正が無効(OFF)、同時保存データが通常内視鏡像の場合の処理内容を示し、図21は図20の場合の表示&保存開始/停止のタイミングチャートを示し、図22は表示保存モードが全画像表示保存、タイミングがブレ補正、ブレ補正が有効(ON)、同時保存データがスケールの場合の処理内容を示し、図23は図22の場合における表示&保存開始/停止のタイミングチャートを示す。

【0008】

図1に示す第1の実施の形態の光走査型観察装置(光プローブ装置ともいう)1は、例えば共焦点型の光走査プローブ2と、この光走査プローブ2が着脱可能に接続される観察装置3と、この観察装置3に接続され、光走査画像等を表示するモニタ4とから構成される。

光走査プローブ2は、図示しない内視鏡のチャンネル内に挿通して使用でき、この光走査プローブ2の後端のコネクタ5を観察装置3のコネクタ受け6に着脱自在に接続でき、この接続により、観察装置3に内蔵した例えば半導体レーザ等により構成される光源装置7からの光束が光走査プローブ2に入射される。

光源装置7からの光束(光ビーム)は光ファイバ8を介して、コネクタ5から光走査プローブ2内の光ファイバ9に入射され、この光ファイバ9で光走査プローブ2の先端部側に導光される。

【0009】

先端部には光束を集光して照射する対物レンズ及びスキャニングミラー等で構成される光学素子10が配置され、光ファイバ9の先端部から出射される光束はスキャニング手段としてのXスキャナ11及びYスキャナ12でX方向とY方向にスキャンされる光スキャニングミラーや対物レンズを介して被検体13側に集光照射される。

光学素子10から体内の生体組織等の被検体13側に照射される光束はXスキャナ11及びYスキャナ12によりX方向とY方向とに2次元的にスキャンされ、以下に説明するようにその反射光(戻り光)を検出することにより、2次元画像情報を得られるようにしている。

被検体13側に照射された光束はその一部が反射されて光学素子10に入射され、さらに光ファイバ9の先端部に入射される。この場合、光ファイバ9の先端部はスポット状に小さな面積サイズであり、光学素子10に関してこの部分と共焦点関係にある被検体13側での焦点位置からの反射光のみが入射されるようになる。

【0010】

光ファイバ9に入射された光はさらに光ファイバ8における光カップラ部で分岐して光検出器14にて受光され、光電変換されて電気信号となり、A/D変換器15に入力され、A/D変換されてデジタルデータに変換される。なお、光電変換手段としての光検出器(フォトディテクタ)14の代わりにフォトマルチプライヤチューブ(光電子倍增管)を採用しても良い。

A/D変換された信号は、デジタルデータを記憶(記録)するメモリ16に入力され、少なくとも複数フレーム分の画像データを記憶できるようにしている。このメモリ16としては大容量の動画を記録可能とするシネメモリでも良い。

このメモリ16の出力端から出力される画像データは画像化装置17に入力され、表示可能な画像信号を生成する処理が行われた後、画像表示手段としてのモニタ4に出力され、モニタ4の表示面には光走査プローブ2の光学素子10を2次元走査した際の戻り光による光走査画像、具体的には生体組織の細胞観察画像が表示される。

また、画像化装置17は、ハードディスク等の記録媒体(或いは記憶装置)18を内蔵しており、モニタ4に表示される光走査画像等を記録(保存)することができるようになっている。

【0011】

また、観察装置3内には、画像生成のタイミングを決定する信号発生器21が設けてあ

り、この信号発生器 21 の基準となるクロック信号と、1 フレームの画像を形成する基準の同期信号となる X 方向、Y 方向の X-s y n c、Y-s y n c の両信号とは A/D 変換器 15 に入力され、両信号に同期して A/D 変換器 15 は A/D 変換を行う。

また、信号発生器 21 は、上記同期信号に同期した X-D r i v e、Y-D r i v e の両ドライブ信号をそれぞれアンプ 22、23 に出力し、アンプ 22、23 により増幅された各ドライブ信号により、X スキャナ 11、Y スキャナ 12 をそれぞれ駆動する。

また、図 1 では示していないが、X スキャナ 11、Y スキャナ 12 による 2 次元走査の他にこれらの走査面と直交する方向、通常は深さ方向に走査する手段を備えたものでも良い。

また、観察装置 3 内には、全体を制御する CPU 等を内蔵した制御装置 24 が設けてあり、この制御装置 24 は光源装置 7、光検出器 14、A/D 変換器 15、メモリ 16、画像化装置 17 とを制御する。

【0012】

また、図 12 で説明するように A/D 変換器 15 で A/D 変換された信号を制御装置 24 は取り込むこともできるようにしている。そして、ユーザが選択した表示保存パラメータが選択した条件を満たすか否かを比較等により検出できるようにしている。

また、この制御装置 24 には、表示や保存のパラメータを選択したり、指定する表示保存選択手段として、例えば手で押下可能なキーボード 25 及び手で押下及びドラッグ可能なマウス 26 が接続されている。なお、マウス 26 の他に同様の機能を持つトラックボールなどによる入力デバイスを採用しても良い。

また、共焦点を利用した光走査プローブ 2 の他に、低干渉性の光源による低干渉性光を採用して光観察画像を得るものでも良い。

【0013】

また、本実施の形態では、図示しない内視鏡装置における内視鏡画像を生成するビデオプロセッサ或いはカメラコントロールユニットからの内視鏡画像信号が画像化装置 17 に入力され、画像化装置 17 は混合器等を介して内視鏡画像と光走査画像等をモニタ 4 に出力し、モニタ 4 に両画像を表示できるようにしている。

また、制御装置 24 内部の図示しない CPU は、この制御装置 24 内部の図示しない ROM 等に格納されたプログラムに従って、制御動作を行う。

この場合の制御動作としては、図 2 等を参照して後述するように、モニタ 4 に表示する光走査画像（具体的には生体組織の細胞観察画像）の表示や記録媒体 18 に保存する表示保存モードを選択設定したり、選択基準の設定その他を選択設定等できるようにし、選択設定された条件で光走査画像の表示や保存を行うように制御することが本実施の形態の特徴となっている。

【0014】

つまり、本実施の形態ではモニタ 4 に表示したり、記録媒体 18 に保存する条件を決定する表示保存パラメータを選択可能とする表示保存選択手段を設け、ユーザはキーボード 25、マウス 26 等で選択設定等することにより、選択等で設定された条件で表示や保存を行うように制御装置 24 は画像生成の信号処理を行う画像化装置 17 や光源装置 7 等の制御を行う。

このように、ユーザにより予め選択された条件で表示や保存を行うように制御装置 24 は制御することにより、特にユーザが選択した保存を望む条件を満たす細胞観察画像のみを保存し、条件を満たさない不要となる細胞観察画像を保存しないようにすることができるようにしている。

従って、後で必要とされる細胞観察画像のみを保存するための編集作業が不要或いは、簡単にできると共に、（従来例における）不要な細胞観察画像を記録してしまうことによる記憶容量が制約されるようなこともなく（換言すると、記録するファイリング容量を小さくでき）、必要とされる細胞観察画像を効率良く記憶できるようにして操作性を向上している。

【0015】

また、以下で説明するように細胞観察画像を表示するモニタ 4 上に表示や保存を決定づける表示保存パラメータを表示し、ユーザはそのパラメータの設定を細胞観察画像を観察できる状態で行うことができ、かつ設定を確認もし易くして使い勝手（操作性）を向上している。

次に図 2 を参照して本実施の形態で選択できる表示保存モード等の詳細を説明する。

図 2 に示すようにモニタ 4 の表示面には、その右上に光走査プローブ 2 で得た光走査画像としての細胞観察画像を表示する細胞観察画像表示領域 R 1、左上に患者情報を表示する患者情報表示領域 R 2、左下に通常内視鏡画像を表示する通常内視鏡画像表示領域 R 3、右下に表示保存パラメータを設定する表示保存パラメータ設定ウィンドウ R 4 とが分割して表示されるようにしている。

【0016】

細胞観察表示領域 R 1 には、光走査プローブ 2 で得た細胞観察画像の他に、その大きさを示すスケール S や、マウス 26 等による操作で移動自在のカーソル K を任意位置に表示したり、キーボード 25 により任意位置にテキスト T を重畳表示することもできるようにしている。

また、表示保存設定ウィンドウ R 4 には、表示保存モード、選択基準、同時保存データ、タイミング、ブレ補正の各表示保存設定条件が表示され、これらの条件を設定可能である。これらの各パラメータを選択設定することにより、その選択設定されたパラメータの情報は制御装置 24 内部等の図示しないメモリ等に格納され、制御装置 24 は選択設定されたパラメータに従って表示および／あるいは保存処理を行うように制御する（図 4 のフローチャートで後述）。

【0017】

表示保存モードとして 4 つの表示／保存モードが表示される。具体的には、特定画像表示保存モード、特定画像表示全画像保存モード、全画像表示特定画像保存モード、全画像表示保存モードが用意されている。

特定画像表示保存モードは特定画像を表示すると共に、特定画像を保存するモードである。

また、特定画像表示全画像保存モードは、特定画像を表示し、かつ全画像を保存するモードである。

また、全画像表示特定画像保存モードは、全画像を表示し、特定画像を保存するモードである。

また、全画像表示保存モードは、全画像を表示すると共に、全画像を保存するモードである。

このようにユーザは 4 つのモードから所望とするモードをキーボード 25 或いはマウス 26 による入力デバイスにより選択して、表示及び保存のモード選択ができるようにしている。この場合、特定画像表示保存モード等の 4 つのモードの前の丸○及び●は、それぞれ設定が無効（OFF）及び設定が有効（ON）であることを示している。他の選択基準等の選択設定においても同様である。

【0018】

なお、初期設定の設定値として全画像表示保存に設定しているが、特にこれに限らず、他の 3 つのモードでも構わない（図 5 のフローチャートで後述）。

また、表示保存モードで、表示或いは保存に対して特定画像を選択した場合には、その特定画像を選択基準により特定できるようにしている。この場合の選択基準としては、輝度、大きさ、領域、フレーム、時間の 5 項目のパラメータから選択設定できるようにしている。なお、この選択基準において、大きさは輝度を選択基準にした場合に付随的に選択できる選択基準である（従って、4 項目を主要な選択基準としているともいえる）。

また、選択基準の下には水平バー H 1 が表示され、この水平バー H 1 により選択基準となる項目パラメータの値を簡単に設定できるようにしている。

選択基準として輝度を選択した場合は、画像の輝度値（輝度レベル）によりその値以上のものを特定画像とするように選択基準を与えるものである。

【0019】

具体的には輝度値を例えば8ビットで表し、その場合の輝度範囲は0-255となり、255が最大値となる。初期設定は輝度でかつその設定値は255であるが、これに限らず、任意の輝度値に設定しても構わない。また、他の項目を初期設定にすることもできる。

選択基準を輝度値に設定した場合、輝度値を、図2の選択基準の下の水平バーH1を、キーボード25あるいはマウス26により移動操作すると、その移動位置に応じて0-255(8ビット)のいずれかに簡単に設定することができる。

図2の例では●により輝度が選択基準で選択され、その輝度値は水平バーH1の移動により150に設定された状態を示す。そして、この場合には、特定画像が選択設定されている場合、輝度値が150以上の場合にその特定画像の表示或いは保存がされる。

【0020】

また、選択基準としての“大きさ”は細胞観察表示領域R1に表示される画像或いは保存される画像がその大きさを持った細胞があるものを選択基準とするものである。

また、選択基準としての領域は表示領域或いは保存領域を指定するものである。

この場合には、図3に示すような十字カーソルK1が現れ、それをキーボード25あるいはマウス26によりクリックおよびドラッグして、斜線部分で示す(選択基準となる)指定領域Rcを表示領域或いは保存領域とするように設定する。

すなわち、図7のフローチャートで示すように、まず最初のステップS26で画像上の任意の位置で十字カーソルK1をクリックして始点を決定((1)で示す部分の処理)し、次のステップS27で十字カーソルK1を任意の位置へドラッグして終点まで移動((2)で示す部分の処理)し、さらに次のステップS28で画像上の任意の位置で十字カーソルK1をクリックして終点を決定((3)で示す部分の処理)することにより選択基準の領域Rcを設定する。

【0021】

選択基準としてフレーム(画像1枚分を構成するデータ)を選択した場合、図2の選択基準の下の水平バーH1を、キーボード25あるいはマウス26により、表示および/または保存が開始されてから停止するまでのフレーム枚数を指定する(図2の表示例の場合は0-160枚まで)。

選択基準として時間を選択した場合、図2の選択基準の下の水平バーH1を、キーボード25あるいはマウス26により、表示および/または保存が開始されてから停止するまでの時間を指定する(図2の表示例の場合は0-8000msまで)。

また、細胞観察画像と共に同時に保存される同時保存データとしては、通常内視鏡画像、スケールS、テキストT、カーソルKを選択できるようにしている。選択基準では1つの項目のみを主に選択できたが、この場合には、複数の項目も選択できる。図2の場合では、通常観察画像とスケールSとを同時に保存するデータとして選択している。

【0022】

また、タイミングは、どのタイミングで特定画像の表示及び/又は保存を開始するかの条件を決定するものであり、そのタイミングとして、スキャン、フリーズ(画像静止)、フリーズ前後(画像停止の前後の画像)、レーザ、ブレ補正のいずれかの項目の条件を選択できるようにしている。

スキャンが選択された場合には、スキャン、つまり光走査のタイミングに同期して特定画像の表示等を行い、またフリーズが選択された場合にはフリーズ(静止画)のタイミングに同期して特定画像の表示等が行われ、フリーズ前後が選択されると、フリーズ(静止画)の前後の何フレーム目かを表示等のタイミングにするかを選択設定する。この場合には選択基準の水平バーH1のようにフリーズ前後の表示の下に水平バーH2が表示され、水平バーH1の場合と同様の操作で、フリーズ前後何フレーム目かの設定を行うとそのタイミングに同期して表示などが行われるようになる。

また、レーザを選択すると、このレーザの発振開始(光出力)のタイミングに同期して、特定画像の表示などが行われるようになり、またブレ補正を選択した場合には、ブレ補

正の開始のタイミングに同期して、特定画像の表示などが行われる。

【0023】

うちの、どのタイミングと同期して画像表示および／または保存を開始および停止するかの条件を設定する。

また、右端のブレ補正はブレ補正を行うか否かの条件を選択するもので、ブレ補正を行うを選択するとON、行わない場合にはOFFとなる。

次に本実施の形態の作用を図4等を参照して説明する。

図4は表示／保存方法の設定から表示／保存処理までの処理内容を示す。この光走査型観察装置1の電源が投入され、その動作が開始すると、ステップS1の表示保存モードの設定の処理が行われる。

この表示保存モードの設定の処理の詳細は図5に示すようになっており、この表示保存モードの設定の処理が開始すると、ステップS7に示すように、表示保存モードとして初期設定の全画像表示保存モードにされ、この全画像表示保存以外の表示保存モードを選択できるように次のステップS8では表示保存モードの選択を行う処理となる。

【0024】

図4のステップS1の表示保存モードの設定の処理が終了すると、ステップS2の表示保存モードが全画像表示保存モードかの判断が行われる。そして、全画像表示保存モードでない場合には、ステップS3の選択基準の設定の処理を行い、その後ステップS4に進む。この選択基準の設定の処理の詳細を図6に示す。一方、ステップS2の表示保存モードの判断において、全画像表示保存モードでない場合には、ステップS4のタイミングの設定の処理に移る。タイミングの設定の処理の詳細を図8に示す。

タイミングの設定の処理が終了すると、ステップS5の同時保存データの設定の処理、ステップS6の表示／保存処理を行って、図4の処理を終了する。ステップS5の同時保存データの設定の処理、ステップS6の表示／保存処理の詳細はそれぞれ図9、図10に示す。

【0025】

次に図6の選択基準の設定の処理を説明する。

選択基準の設定の処理が開始するとステップS11の選択基準を輝度にする初期設定がされ、また次のステップS12の輝度値を255とする初期設定がされた後、ステップS13の選択基準の選択の処理に移る。

そして、ステップS14の選択基準として輝度を選択するか否かの判断が求められるので、ユーザはこの輝度を選択基準として選択すると次のステップS15で輝度値の設定を0から255の範囲で行う。すると、さらに次のステップS16で大きさをONにするか否かの選択が求められ、大きさを選択する(ON)と次のステップS17で大きさの設定を行うことになる。例えば10 μ m以下と設定する。そして、その後ステップS18に進む。

【0026】

一方、ユーザが輝度を選択基準として選択しないとステップS18に移る。このステップS18では選択基準として領域を設定するかを選択が求められる。この領域を選択すると、次のステップS19で領域の設定処理を行うことになる。この領域の設定処理の詳細は図7を参照して上述した。

この領域の設定処理が終了すると、ステップS20の選択基準としてフレームを選択するか判断が求められ、フレームを選択すると、次のステップS21で開始／停止フレームの設定を行い、次のステップS22に進む。ステップS21の開始／停止フレームの設定の具体例としては、例えば0から160枚のフレーム数の設定を行う。

【0027】

また、ステップS20でフレームを選択しないと、ステップS22に移る。このステップS22では、選択基準として時間を選択するか判断が求められ、この時間を選択すると、次のステップS23で開始／停止時間の設定を行い、この図6の処理を終了する。この開始／停止時間の設定の具体例としては、例えば0から8000msecの設定を行う。

。また、時間を選択しない場合にもステップS 2 3の処理を行わないで図6の処理を終了する。

次に図8のタイミングの設定の処理を説明する。

タイミングの設定の処理が開始すると、ステップS 3 1でタイミングとしてスキャンにする初期設定がされ、次のステップS 3 2でタイミングの選択の処理となる。そして、ステップS 3 3でタイミングとしてブレ補正を選択するか否かの判断が求められ、このブレ補正を選択すると、次のステップS 3 4でブレ補正OFFを選択するか判断が求められる。

【0028】

ブレ補正をOFFとすると、ステップS 3 3の選択と整合しないので、ステップS 3 3に戻る。一方、タイミングとしてブレ補正を選択しないと、ステップS 3 5に移り、タイミングとしてフリーズ前後を選択するか判断が求められる。この判断に対して、フリーズ前後を選択すると、次のステップS 3 6でフリーズ前後のフレーム数の設定を行うことになる。具体的には、例えば-80から+80のフレーム数を設定して図8の処理を終了する。また、ステップS 3 5でタイミングとしてフリーズ前後を選択しない場合にも、ステップS 3 6を行うことなく図8の処理を終了する。

次に図9の同時保存データの設定処理を説明する。この同時保存データの設定処理が開始すると、ステップS 3 8に示すように、通常内視鏡画像ON、スケールOFF、テキストOFF、カーソルOFFの初期設定がされる。そして、次のステップS 3 9で同時保存データのパラメータの選択或いは選択解除の処理を行う。つまり、ステップS 3 9で初期設定のパラメータと異なる選択等を行って、図9の処理を終了する。

【0029】

このように各種のパラメータの設定が終了すると、その設定に沿って特定画像の表示や保存が行われるようになり、ユーザの設定に基づく特定画像を表示したり、保存ができるようになる。

以上の表示および／または保存の設定の場合の数は、図10に表として示すように、全部で80通りとなる。

なお、図10では選択基準として、輝度、領域、フリーズ、時間をそれぞれ1つ選択した場合での表示保存パターン数を示しているが、例えば図6のフローチャートで説明したように、選択基準として、輝度を選択して、さらに領域も選択するように選択基準として複数の項目を設定した場合も含めると表示保存パターン数ははるかに大きくなる。

【0030】

以下、代表的な設定例の場合を図11、図14、図15、図17、図20、図22を参照して順次説明する。

【0031】

図11のフローチャートは具体的には、図2の表示例の通り、表示保存モードが特定画像表示保存、選択基準が輝度（輝度値=150）、大きさが無効（OFF）、タイミングがスキャン、ブレ補正が無効（OFF）、同時保存データが通常内視鏡像およびスケールの場合であり、その動作を説明する。

光走査型観察装置1の電源が投入され、その動作が開始すると制御装置24は動作状態になり、図11のステップS 4 1に示すようにスキャンを開始するのを待つ状態となる。

そして、スキャンが開始すると、ステップS 4 2に示すように表示及び保存開始する。次にステップS 4 3に示すように、フレーム内の輝度値が1度でも150以上になったか否かを判断する。

【0032】

この場合のように、選択基準が輝度で、設定された輝度値以上の細胞観察画像の信号が入力されたか否かを判断する信号処理系の回路構成を図12に示す。

例えば図12に示すようにA/D変換器15の出力信号は制御装置24内の比較器31の一端に入力され、また制御装置24内部のパラメータ格納部32に格納された輝度値（=150）が比較器31の他方の入力端に基準値として入力され、比較器31により基準

となる輝度値 (= 150) 以上の細胞観察画像の信号が入力されたかを判断し、この比較器 31 の出力信号でメモリ 16 への信号書き込みを制御する。

そして、フレーム内の輝度値が 1 度も 150 以上にならない場合には、ステップ S 4 4 に示すようにメモリ 16 への書き込みを禁止し、さらに次のステップ S 4 5 では、メモリ 16 への書き込みを禁止する直前に、メモリ 16 に書き込んだデータを読み出し、そのデータを表示用 RAM 等に保持して、そのデータをモニタ 4 に表示し、次のステップ S 4 6 に進む。

【0033】

つまり、フレーム内の輝度値が 1 度も 150 以上にならない場合には、それより以前にフレーム内の輝度値が 1 度も 150 以上になった最新のデータを読み出し、そのデータを表示用 RAM 等に保持して、そのデータをモニタ 4 に表示し続ける。

ステップ S 4 6 ではスキャン停止か否かを判断し、スキャン停止でない場合には、ステップ S 4 7 の次フレームの処理に移行し、次のフレームの処理に移行した後、ステップ S 4 3 に戻る。

一方、ステップ S 4 3 でフレーム内の輝度値が 1 度も 150 以上になった場合には、ステップ S 4 8 のメモリ 16 の書き込みスペースに 1 フレーム分以上の (より正確には 1 フレーム分の画像データと同時保存するデータ分の) 空きが有るかの判断を行う。そして、空きがない場合には、ステップ S 4 9 に示すように、メモリ 16 内の最も古いデータを上書き領域として確保して、次のステップ S 5 0 に進む。

【0034】

一方、メモリ 16 の書き込みスペースに 1 フレーム分以上の空きが有る場合にはステップ S 5 0 に移り、このステップ S 5 0 でメモリ 16 に細胞観察画像 (図 11 等では細胞画像と略記) 及び同時保存データを同時に書き込んだ後、次のステップ S 5 1 に進む。

ステップ S 5 1 では、書き込んだデータをメモリ 16 から読み出して、モニタ 4 に表示し、その後ステップ S 4 6 に移る。上述のようにスキャン停止かの判断を行い、スキャン停止でない場合にはステップ S 4 7 を経てステップ S 4 3 に戻る。

ステップ S 4 6 で、ユーザによりスキャン停止が指示された場合にはステップ S 5 2 に進み、表示及び保存停止の処理を行う。

そして、次のステップ S 5 3 でファイル保存するか否かの判断が求められ、ユーザが保存を選択すると、ステップ S 5 4 に示すようにファイル名、形式を指定して記録媒体 18 に保存する処理が行われ、図 11 の処理を終了する。なお、ステップ S 5 3 でファイル保存を選択しない場合には、記録媒体 18 に保存する処理が行われることなく、図 11 の処理が終了する。

【0035】

図 13 は図 11 の場合における動作のタイミングチャートを示す。この図 13 に示すようにスキャン開始と同時に表示および保存を開始する。また、スキャンの停止に同期して表示および保存を停止する。スキャンを停止し、メモリ 16 に記録された画像データは、所定のファイル形式で、記録媒体 18 (例えば HDD などの磁気ディスク、CD-R、MO、DVD-R 等の光磁気ディスクなど) に保存できる。ファイル名は任意に設定可能で、ファイル形式は、Multi-TIFF などのマルチ静止画ファイルや、AVI、MPEG-1、MPEG-2 等の動画ファイルとして保存可能である。

次に図 14 を参照して、2 つ目の代表例の場合の動作を説明する。この場合は、図 2 の選択設定状態において、さらに大きさを有効 (ON) にした場合の動作である。つまり、図 11 の表示/保存の条件において、大きさを有効にしたものであり、具体的には、表示保存モードが特定画像表示保存、選択基準が輝度 (輝度値は 150)、大きさが有効 (ON)、タイミングがスキャン、ブレ補正が無効 (OFF)、同時保存データが通常内視鏡画像及びスケールの場合の表示/保存処理の動作に相当する。

【0036】

例えば、1 フレームの中に 10 μ m の大きさの細胞画像が存在するとき、例えば、表示画素全画素数が 512 \times 512 (= 約 20 万画素) のうちで輝度値が 150 以上になる画

素数はおおよそ1万画素と決定できる。

よって、輝度値が150以上でなおかつ1フレームあたりの画素数が1万画素であれば、細胞画像がその1フレームの中に存在するとして、そのフレームのみを表示および保存する。

図14に示すフローチャートは、図11に示すフローチャートにおいて、ステップS42とS43（より正確には類似するステップS43'）との間にステップS61、ステップS43とステップS44との間にステップS62～S65を設けた動作になっている。このため、図11と基本的に異なる部分の説明を行う。

【0037】

動作が開始すると、図11と同様にステップS41、S42を経てステップS61の画素数カウンタの初期化を行う。つまりカウント変数 $i=0$ に設定した後、次のステップS43'で入力される画像データ（の各画素）の輝度値が（基準の輝度値としての）150以上かの判断を行う。

この条件を満たす場合には次のステップS62でカウント変数 i を1増加し、次のステップS63でフレームの終わりの判断を行い、フレームの終わりでない場合には、ステップS64の次の画素の処理に移行して、ステップS43'に戻る。ステップS43'で、入力される画素の輝度値が150以上にならない場合には、ステップS62を飛ばしてステップS63に移る。

また、ステップS63で、フレームの終わりの場合にはステップS65に進み、カウント変数 i の値が10000以上か（つまり、 $i \geq 10000$ ）の条件を満たすかの判断を行い、この条件を満たす場合には、1フレームの中に10 μ mの大きさの細胞画像が存在すると判断してステップS48に進み、メモリ16に書き込む処理を行うことになる。

一方、ステップS65の条件を満たさない場合にはステップS44に進み、メモリへの書き込みを禁止し、それより以前にメモリ16に書き込んだ最新のデータを読み出してモニタ4に表示する処理を行う。

その他の動作は図11と同様である。

【0038】

次に3つ目の代表例の場合として、表示保存モードが特定画像表示全画像保存、選択基準が領域、タイミングがフリーズ（静止画像表示）、ブレ補正が無効（OFF）、同時保存データがテキストの場合について説明する。

ブレ補正、同時保存データの設定はいずれの設定であっても処理に影響はないので説明は省く。この場合、図3に示した領域設定により設定された指定領域 R_c の静止画像のみ表示し、静止画像の全表示画素を保存することになる。キーボード25、マウス26などの入力デバイスによりフリーズすると、図15のフローチャートのような動作となる。

動作が開始してステップS71でスキャンが開始されるのを待ち、さらにその後ステップS72に示すようにフリーズの指示がされるのを待つ。そして、このフリーズの指示がされると、ステップS73に示すようにメモリ16への書き込みスペースに空きが有るかの判断が行われ、空きが無いとステップS74に示すようにメモリ16内の最も古いデータを上書き領域として確保し、次のステップS75でメモリ16に細胞観察画像及び同時保存データを同時に書き込み、次のステップS76に進む。

【0039】

一方、ステップS73でメモリ16への書き込みスペースに空きがある場合には、ステップS75に移る。

ステップS76では書き込んだデータをメモリから読み出してモニタ4に表示し、次のステップS77で対象画素が指定領域 R_c （図15中では簡単化のため、符号 R_c を省略して指定領域と略記）外か否かの判断を行う。

対象画素が指定領域 R_c 外の場合には、ステップS78に示すようにその画素の輝度値を0にする。つまり、指定領域 R_c の外では黒レベルで表示されるようにする。その後、次のステップS79でフレームの終わりの判断をし、フレームの終わりでない場合にはステップS80に示すように次の画素に移行してステップS77に戻る。

一方、ステップ S 7 7 の判断で、対象画素が指定領域 R c 内の場合にはステップ S 7 9 に移る。このステップ S 7 9 でフレームの終わりと判断された場合には、ステップ S 8 1 に示すようにモニタ 4 に指定領域 R c の細胞観察画像を表示する。

【0040】

その後、次のステップ S 8 2 でファイル保存するか否かの判断を求め、保存が選択された場合にはメモリ 1 6 からデータを読み出し、ファイル名、形式を指定して記録媒体 1 8 に保存する処理を行い、図 1 5 の処理を終了する。また、ファイルの保存を選択しない場合にはステップ S 8 3 の処理を飛ばして図 1 5 の処理を終了する。

図 1 6 は図 1 5 の動作のタイミングチャートに示す。図 1 6 に示すようにスキャンが開始し、フリーズ指示がされてフリーズ指示の信号が出されるフリーズタイミングに同期して、そのタイミングで全静止画像をメモリ 1 6 に記録し、メモリ 1 6 から読み出したデータのうち、指定した指定領域 R c の画像のみを静止画として表示するよう、制御装置 2 4 が制御する。

メモリ 1 6 に記録された画像データは、ファイル形式で、記録媒体 1 8 に保存される。ファイル名は任意に設定可能で、ファイル形式は、T I F F、B M F などの静止画ファイルとして保存可能である。

【0041】

次に、4 つ目の代表例の場合として表示保存モードが全画像表示特定画像保存、選択基準がフレーム、指定フレーム数が 1-50 フレーム、タイミングがフリーズ前後（タイミング位置は-10）、ブレ補正が無効（O F F）、同時保存データがカーソルの場合について説明する。

ブレ補正、同時保存データの設定はいずれの設定であっても処理に影響はないので説明は省く。この場合、フリーズしたタイミングよりも 10 フレームさかのぼったタイミングで表示および保存を開始し、1-50 フレームのみを保存し、10 フレームさかのぼった静止画像を表示することになる。キーボード 2 5、マウス 2 6 などの入力デバイスによりフリーズすると、図 1 7 の処理及び図 1 8 のタイミングチャートで示すようにメモリ 1 6 に書き込まれたデータを 10 フレーム分さかのぼって読み出して表示する。

【0042】

さらに、ファイル保存時は、10 フレーム分さかのぼった画像から連続 50 枚の画像を保存する。

以下、図 1 7 を参照してその動作を説明する。図 1 5 の場合と同様にステップ S 7 1 でスキャンが開始されるのを待ち、次のステップ S 7 2 でフリーズ指示がされたか否かを判断する。

そして、フリーズ指示がされた場合には次のステップ S 8 5 に示すようにメモリ 1 6 から、10 フレーム前に書き込んだデータを読み出してモニタ 4 に表示し、次のステップ S 7 3 に進む。ステップ S 7 3 からステップ S 7 6 までは図 1 5 と同様であり、メモリ 1 6 から読み出したデータをモニタ 4 に表示し、次のステップ S 8 6 でスキャン停止又はフリーズ解除かの判断を行う。

【0043】

そして、スキャン停止又はフリーズ解除のいずれにも該当しない場合には、ステップ S 8 7 に示すように次のフレームの処理に移り、ステップ S 7 5 に戻る。一方、ステップ S 7 2 でフリーズ指示がされていないと、ステップ S 8 5 を飛んでステップ S 7 3 の処理を行う。

また、ステップ S 8 6 の判断で、スキャン停止又はフリーズ解除に該当する場合には、ステップ S 8 2 に進み、ファイル保存するか否かの判断を求める処理を行い、保存を選択しないと保存しないでこの処理を終了し、保存を選択した場合には、ステップ S 8 8 に示すようにメモリ 1 6 からフリーズ画像を基準に、50 フレーム分のデータを読み出し、ファイル名、形式を指定して記録媒体 1 8 に保存する処理を行って図 1 7 の処理を終了する。

【0044】

図18は図17の場合における表示&保存開始/停止のタイミングを示し、この図18に示すようにスキャンが開始した後、フリーズ指示操作がされると、そのタイミングから10フレーム前でメモリ16に書き込んだデータを読み出して表示すると共に、保存する。

また、図19はメモリ16でのデータ格納状態を示し、この図19に示すようにフリーズ指示のタイミングから10フレーム前のデータからそれより後の50フレーム分のデータが保存されることになる。

なお、図18では、表示/保存の停止のタイミングが指定フレーム数に達した後までスキャンされた場合の例であるが、指定フレーム数に達する前にスキャンが停止した場合は、そのタイミングに同期して表示/保存を停止することになる（従って、その場合には、50フレーム分より少ない枚数の表示や保存となる）。

【0045】

次に、5つ目の代表例の場合として、表示保存モードが特定画像表示保存、選択基準が時間、指定時間が1000msec、タイミングがレーザ、ブレ補正が無効（OFF）、同時保存データが通常内視鏡像の場合について説明する。

ブレ補正、同時保存データの設定はいずれの設定であっても処理に影響はないので説明は省く。

概略の動作を説明すると、図20及び図21に示すように、タイミングがレーザの場合、レーザのON/OFFタイミングはスキャンの開始/停止に同期しているので、図11に示したフローチャートと類似の処理となるが、スキャンの開始/停止タイミングと非同期の場合、レーザが出射されているときだけ表示および保存を行うことで、無駄な画像の表示および保存を省くことができる。なお、4つ目の代表例で説明したのと類似して、図21において、選択基準の範囲0-1000msecに到達する前にレーザ（あるいはスキャン）が停止した場合は、そのタイミングで表示や保存を停止する。

【0046】

次に図20のフローチャートを参照して説明する。この場合の動作は図11のフローチャートに類似しているので、図11の場合と同様のステップ番号を用いて説明する。

図11の場合と同様に最初のステップS41でスキャンの開始を待ち、次にはステップS91に示すようにさらにレーザONを待ち、その後ステップS42の表示及び保存を開始し、次のステップS48でメモリの書き込みスペースに空きが有るかの判断を行う。

ステップS48からS51までは図11と同様の処理を行い、その後ステップS92で時間が1000msec経過したかの判断を行い、経過していない場合にはステップS46のスキャン停止かの判断を行う。スキャン停止でない場合にはステップS47の次フレームに移行する処理を行い、ステップS48に戻る。スキャン停止の場合には、さらにステップS93でレーザ停止の判断を行いレーザが停止されるまで待った後、ステップS52の表示及び保存停止の処理に移る。その後は図11と同様にステップS53、S54に進む。

また、ステップS92の判断において、1000msec経過した場合には、このステップS52に移ることになる。

【0047】

上述したようにこの場合のタイミングチャートは図21に示したようになる。なお、図21ではレーザ発振開始とスキャン開始とが同期した場合で示し、また停止の場合も同期した場合で示している。

次に6つ目の代表例の場合として、表示保存モードが全画像表示保存、タイミングがブレ補正、ブレ補正が有効（ON）、同時保存データがスケールの場合について説明する。同時保存データの設定はいずれの設定であっても処理に影響はないので説明は省く。

この場合、ブレ補正をキーボード25、マウス26などの入力デバイスにより行ったタイミングで（予めブレ補正を行う設定になっている場合はスキャン開始に同期して）保存が開始され、ブレ補正を解除あるいはスキャンを終了するまで保存する（図22のフローチャート、図23のタイミングチャート参照）。

なお、図 22、図 23 において、ブレ補正が停止する前にスキャンが停止した場合は場合は、そのタイミングで停止する。

【0048】

また、ブレ補正は、例えばフレーム間での細胞画像のずれの度合いにより、ある度合いを超えたらそのフレームを抜いて表示せず、それよりも前のフレームのデータを保持して表示し続けるなど、ごく一般的に知られたアルゴリズムで実現できる方法で実現するものとする。

図 22 のフローチャートを参照してその動作を説明する。

この場合の動作は図 11 のフローチャートの動作と類似しているので、図 11 と同じステップ番号を用いて説明する。

図 11 と同様に最初のステップ S 41 でスキャンの開始を待ち、次にステップ S 95 に示すようにブレ補正が ON にされるのを待つ。ブレ補正が ON にされた後、ステップ S 42 に進み、その次にステップ S 48 ~ S 51 の処理を行う。

【0049】

ステップ S 51 の後、ステップ S 96 のブレ補正解除か又はスキャン停止かの判断を行い、これに該当しない場合にはステップ S 47 の次フレームに移行する処理を行った後、ステップ S 48 に戻る。

一方、ブレ補正解除か又はスキャン停止に該当する場合には、ステップ S 52 の表示及び保存停止の処理に移り、さらにステップ S 53、S 54 の処理を行ってこの図 22 の処理を終了する。

また、この場合のタイミングチャートは図 23 に示したようになる。つまり、スキャンなどが開始し、その後ブレ補正が実行されたタイミングで表示と保存を開始し、その後ブレ補正が解除されるとそのタイミングで表示及び保存を停止する。

【0050】

以上説明したように本実施の形態によれば、光走査プローブ 2 により得た細胞観察画像が表示されるモニタ 4 上で表示や保存の設定条件を設定或いは選択設定などができ、設定した条件を満たす画像のみを表示したり、保存できるようにしているので、使い勝手（操作性）を向上できる。

また、モニタ 4 上で設定条件の確認ができる。つまり容易に設定条件の確認ができ、使い勝手が良い。

また、所望とする画像を効率良く保存することができ、従来例における不要な画像まで保存して、後で不要な画像から所望とする静止画像を抽出する編集などの作業を不要或いは大幅に軽減できる。

また、不要な画像を無駄に保存しないようにできるので、記録媒体 18 として記録容量が大きなものでなくても済む。

【0051】

（第 2 の実施の形態）

次に図 24 及び図 25 を参照して本発明の第 2 の実施の形態を説明する。図 24 は第 2 の実施の形態の光走査観察装置におけるリジッドタイプの光走査プローブの内部構成を示し、図 25 は光走査プローブによる使用例を示す。

本実施の形態の光走査観察装置 50 は、図 24 に示すリジッドタイプの光走査プローブ 51 を採用している。このリジッドタイプの光走査プローブ 51 は、（軟性のチューブで構成される）フレキシブルなシース 52 の先端部にピント合わせユニット 53 及び 2 次元走査手段 54 等を内蔵した硬質のプローブ筐体 55 と、このプローブ筐体 55 に選択的に着脱自在の対物ユニット 56 A 及び 56 B とから構成される。

上記プローブ筐体 55 は、例えば 1 辺が数 10 mm 程度の大きさで小型かつ軽量であり、また対物ユニット 56 A 及び 56 B のレンズ筒 64 は、その外径が数 mm 程度、例えば $\phi 3$ 程度である。

【0052】

上記シース 52 内には、光ファイバ 57 及び電気ケーブル 58 とが挿通され、このシー

ス 5 2 の基端にはコネクタ 5 が設けてあり、観察装置 3 B のコネクタ受け 6 に接続される。

そして、光ファイバ 5 7 には、観察装置 3 B 内の光源装置からの光束が光ファイバを介して入射される。

そして、この光束は、光ファイバ 5 7 により伝送され、その先端面に伝送される。この光ファイバ 5 7 の先端側は、シース 5 2 の先端からさらにプローブ筐体 5 5 側に延出されている。そして、ピント合わせユニット 5 3 内で光ファイバ 5 7 の先端部がフェルール 5 9 により保持されている。このフェルール 5 9 は、さらにフェルール 5 9 を保持するフェルール保持部材 6 1 を介してピント合わせ駆動部 6 2 により図 2 4 の矢印で示すように光ファイバ 5 7 の軸方向（図 2 4 において Z 方向）に移動自在に保持されている。

【0053】

このピント合わせ駆動部 6 2 は、アクチュエータを位置制御する構成であり、このアクチュエータは、例えばエンコーダを取り付けたモータ 6 2 a を備えたリニアステージ 6 2 b により構成される。例えばフェルール保持部材 6 1 は、リニアステージ 6 2 b の可動部上に移動自在に保持され、ステッピングモータ 6 2 a の回転により図示しないギヤ等を介して光ファイバ 5 7 の軸方向に移動される。この場合の移動ストロークは、例えば数 mm 程度、具体的には 5 mm であり、またその分解能は数 μ m 程度、例えば 5 μ m である。なお、ピント合わせ駆動部 6 2 を構成するアクチュエータとしては、ステッピングモータとボールネジとの組み合わせ等でも良い。

【0054】

なお、本実施の形態では、ピント合わせユニット 5 3 を、フェルール 5 9 を光軸方向に動かす例として示したが、ピント合わせユニット 5 3 は、コリメータレンズ 6 3 を光軸方向に動かす装置としても良い。すなわち、フェルール保持部材 6 1 の代わりに、図示しないコリメータレンズ 6 3 を保持する部材をピント合わせ駆動部 6 2 で動かす装置としても良い。

また、ピント合わせユニット 5 3 は、観察部 6 8 を光軸方向に変えることができるので、観察対象物 6 7 の深さ方向の断層画像を取得することも可能である。

光ファイバ 5 7 の先端面が出射される光はコリメータレンズ 6 3 により平行な光束にされ、マイクロマシンミラー等で形成された 2 次元走査手段 5 4 により反射される。この 2 次元走査手段 5 4 を構成するマイクロマシンミラーが 2 次元的に駆動されることにより、反射される光束が 2 次元的に走査される（図 2 4 では光ファイバ 5 7 の軸と垂直な X、Y 方向に走査する）。

【0055】

この 2 次元走査手段 5 4 により反射された光束は、対物ユニット 5 6 I（I = A 或いは B）のレンズ筒 6 4 の基端付近に取り付けた瞳レンズリレー 6 5 を介してレンズ筒 6 4 の先端に取り付けた対物レンズ 6 6 I を介して観察対象物 6 7 側に集光されて照射され、その際に観察対象物 6 7 の表面付近の観察部 6 8 がフォーカス点となるようにピント合わせユニット 5 3 で調整可能である。

なお、本実施の形態では、瞳レンズリレー 6 5 が対物ユニット 5 6 I 内に配置された例として示したが、瞳レンズリレー 6 5 は、プローブ筐体 5 5 内に配置し、対物ユニット 5 6 I と切り離せる構造にしても良い。

【0056】

このプローブ筐体 5 5 には 2 次元走査手段 5 4 における光の走査方向に設けた開口部には対物ユニット 5 6 I を構成するレンズ筒 6 4 の基端部 7 0 に当接して位置決めした状態で取り付け可能とする対物ユニット取り付け部 6 9 が設けてある。

また、上記開口部におけるレンズ筒 6 4 の基端部 7 0 を挟むようにして対物ユニット取り付け部 6 9 と反対側の位置には、ID 検出部 7 1 が設けてあり、対物ユニット 5 6 I の基端部 7 0 に設けた切り欠き部 7 2 I を検出することにより対物レンズ 6 6 I の倍率等を判定する。

対物ユニット 5 6 A と 5 6 B とは、例えば対物レンズ 6 6 A 及び 6 6 B の倍率が異なり

、従って切り欠き部 72A 及び 72B が設けてある位置も異なる。そして、ID 検出部 71 は、電気接点や、光センサ等を用いて切り欠き部 72A 及び 72B の位置を検出し、その位置の検出に応じて ID 検出信号を出力する。

【0057】

なお、このような切り欠き部 72A 及び 72B のようなメカニカルな構造の違いにより ID 識別を行うものの他に、ID 情報を記録した記録媒体、記録素子（例えば ROM）等から記録されている ID 情報を電氣的に読み取る構成にしても良い。

上記電気ケーブル 58 は、ピント合わせ駆動部 62 を駆動する駆動線 58A、2次元走査手段 54 を駆動する駆動線 58B、ID 検出部 71 による ID 検出信号を送信する信号線 58C とからなる。この電気ケーブル 58 はコネクタ 5 を観察装置 3B に接続することにより、この観察装置 3B 内の制御装置と接続される。

この観察装置 3B は、その内部の制御装置が図 1 の制御装置 24 の機能の他に、ピント合わせの駆動信号を出力する機能と、ID 検出部 71 による ID 検出信号により、2次元走査手段 54 を駆動して走査する場合の走査範囲を制御する機能とを持つ。

【0058】

例えば、対物ユニット 56A の対物レンズ 66A の倍率が対物ユニット 56B の対物レンズ 66B の倍率の 4 倍であるとする、対物ユニット 56A が装着された場合での ID 検出信号により、制御装置は、2次元走査手段 54 を走査する信号の振幅を、対物ユニット 56B が装着された場合の 1/4 に制御する。つまり、同じ表示エリアに表示できるように制御する。

2次元走査手段 54 により 2次元方向に走査され、対物レンズ 66A により集光された観察部 68 付近で反射され、さらに対物レンズ 66A 等を経て光ファイバ 57 の先端面に入射された光は、観察装置 3B 内で光電変換して画像化され、この観察装置 3B に接続されるモニタには、その画像が表示される。

本実施の形態においても、光ファイバ 57 の先端面と対物レンズ 66I の集光点（観察部 68）とは殆ど共焦点関係になり、共焦点顕微鏡が形成されるようになっている。

【0059】

上記ピント合わせは数週間から数ヶ月の長期間での連続観察時に、観察部 68 にピントが合うように微調整可能としている。このピント合わせは 2次元走査方向と直交する深さ方向（或いは距離方向）に対するフォーカス調整機構となる。

このプローブ筐体 55 の外表面には、アーム取り付け部 73 が設けてあり、図 25 に示すようにこのアーム取り付け部 73 にはアーム 74 の先端に設けた受動関節 75 を取り付けられるようにしている。

図 25 は本実施例の光走査観察装置 50 における主に光走査プローブ 51 による使用例を示す。この光走査プローブ 51 は、観察台 81 にその基端が固定されたアーム 74 により任意の位置に保持される。このアーム 74 は、その長手方向の途中に回動自在に連結する第 1～第 3 関節 82a～82c が設けてあり、その先端の受動関節 75 が取り付けられる光走査プローブ 51 の保持位置を 3 次的に任意の位置に調整或いは設定できるようにして、プローブ位置決め保持機構 87 を形成している。

【0060】

第 1 関節 82a は、アーム 74 の軸回りで回動自在であり、第 2 及び第 3 関節 82b 及び 82c はアーム 74 の軸と直交する方向で回動自在に連結している。

この観察台 81 には X 及び Y 方向に移動自在となる XY ステージ 82 が取り付けられており、この XY ステージ 82 の上には、例えば U 形状の観察対象固定部 83 が固定されている。

そして、この観察対象固定部 83 は、観察対象物 67 としての例えばラット 67a を挟むようにして固定する。

また、この観察対象固定部 83 の上面には、対物ユニット 56I の先端側を挟むようにして固定する対物ユニット固定部 84 が設けてある（図 25 では対物ユニット 56A の場合で示している）。

【0061】

なお、XYステージ82における図示しないステッピングモータ等の駆動手段は、観察台81から延出される電気ケーブル86の一端と接続され、この電気ケーブル86の他端は観察装置3Bに接続される。

そして、観察装置3Bに設けたキーボード25（図1参照）等进行操作することにより、制御装置24を介してステッピングモータの駆動を制御信号で制御して、XYステージ82の（上面の観察対象固定部83の）位置をX、Y方向など、2軸の各軸方向にそれぞれ移動自在にして、XY平面上における任意の位置に移動調整できるようにしている。

【0062】

そして、このXYステージ82の上面に取り付けた観察対象固定部83によって、リジッドタイプの光走査プローブ51の対物ユニット56Aを位置決めし、観察対象物67としての例えばラット67aを長期間観察することができるようになっている。このように長期間の観察する場合、XYステージ82を移動することにより、観察部68の位置を微調整等することができる。

本実施の形態によれば、簡単な作業で、観察対象物を長期間にわたって、共焦点顕微鏡的に観察することができる。

【0063】

〔付記〕

1. 光源と、

前記光源から出射された光束を対象物に対し走査する少なくとも1つ以上のスキャンング手段と、

前記スキャンング手段を駆動しタイミング信号を発生する信号発生手段と、

前記光源からの光を対象物に照射し、前記対象物からの戻り光を受光する光学系と、

前記光学系が受光した光を受け電気信号に変換する光電変換手段と、

前記光電変換手段から電気信号をデジタルデータに変換するAD変換器と、

前記AD変換器からのデジタルデータを記録するメモリと、

前記メモリに保存されたデータを変換し画像を生成する画像生成手段と、

前記画像生成手段が生成する画像を表示するモニタと、

前記画像生成手段が生成する画像を保存する保存手段と、

前記画像生成手段が生成する画像と共に前記モニタ上に表示される、表示および保存方法を決定づける表示保存パラメータを選択可能に設定する表示保存選択手段と、

前記表示保存パラメータを元に前記光源と前記画像生成手段と前記保存手段のうちの少なくともいずれか一つ以上を制御して表示および保存を実行する制御手段と、

を有することを特徴とする走査型観察装置。

【0064】

2. 前記表示保存パラメータは、

少なくとも特定の画像を表示および／あるいは保存する表示保存モードと、

表示および／あるいは保存する対象となる、前記画像生成手段が生成する画像を特定するための選択基準と、

前記画像生成手段が生成する画像と共に保存される前記画像以外のデータを特定するための同時保存データと、

前記画像生成手段が生成する画像をいずれのタイミングで保存するかを決定付けるための保存タイミングと、

前記画像生成手段が生成する画像のブレを補正するか否かを決定付けるブレ補正と、

の少なくともいずれか一つ以上からなることを特徴とする、前記請求項1に記載の走査型観察装置。

3. 前記画像生成手段は、前記画像生成手段が生成する画像と共に、

通常内視鏡観察画像と、

前記画像生成手段が生成する画像の大きさを示すスケールと、

任意のテキストと、

任意のカーソルと、
のうちの少なくとも1つ以上を同時に前記モニタに表示可能であることを特徴とする付記1に記載の走査型観察装置。

【0065】

4. 前記表示保存選択手段は、前記表示保存モードを、
前記画像生成手段が生成する画像のうち、特定画像のみを表示および保存する特定画像表示保存モード、

前記画像生成手段が生成する画像のうち、特定画像のみを表示し、すべての画像を保存する特定画像表示全画像保存モード、

前記画像生成手段が生成する画像のうち、すべての画像を表示し、特定画像のみを保存する全画像表示特定画像保存モード、

前記画像生成手段が生成する画像のうち、すべての画像を表示および保存する全画像表示保存モード、

のうちのいずれか一つに、選択可能に設定することを特徴とする付記2に記載の走査型観察装置。

5. 前記表示保存選択手段は、前記選択基準を、

前記光学系で受光される光の輝度値を基準とする輝度基準、

前記スキニング手段で走査される範囲のうちの特定領域を基準とする領域基準、

前記画像生成手段から次々と生成される画像のうちの特定の画像枚数を基準とするフレーム基準、

前記画像生成手段から次々と生成される画像のうちの特定の時間内の画像を基準とする時間基準、

のうちのいずれか一つに、選択可能に設定することを特徴とする付記2に記載の走査型観察装置。

【0066】

5-1. 前記制御手段は、前記表示保存選択手段により前記選択基準が前記輝度基準に設定された際、所定の輝度値以上であれば表示および／あるいは保存し、所定の輝度値未満であれば表示および／あるいは保存しないように、画像生成手段および保存手段を制御することを特徴とする付記5に記載の走査型観察装置。

5-1-1. 前記制御手段は、前記表示保存選択手段により前記選択基準が前記輝度基準に設定された際、所定の輝度値以上で、なおかつ画像1枚を構成する1フレーム内で表示される被写体の大きさが所定の大きさ以上であれば表示および／あるいは保存し、それ以外であれば表示および／あるいは保存しないように前記画像生成手段および保存手段を制御することを特徴とする付記5-1に記載の走査型観察装置。

5-1-2. 前記表示保存選択手段は、前記選択基準を前記輝度基準に設定する際、前記所定の輝度値を任意に設定可能であることを特徴とする付記5-1および5-1-1に記載の走査型観察装置。

5-1-3. 前記表示保存選択手段は、前記選択基準を前記輝度基準に設定する際、前記所定の輝度値および前記所定の大きさを任意に設定可能であることを特徴とする付記5-1, 5-1-1, および5-1-2に記載の走査型観察装置。

【0067】

5-2. 前記制御手段は、前記表示保存選択手段により前記選択基準が前記領域基準に設定された際、所定の領域のみ表示および／あるいは保存し、それ以外は表示および／あるいは保存しないように、画像生成手段および保存手段を制御することを特徴とする付記5に記載の走査型観察装置。

5-2-1. 前記表示保存選択手段は、前記選択基準を前記領域基準に設定する際、前記所定の領域を任意に設定可能であることを特徴とする付記5-2に記載の走査型観察装置。

5-3. 前記制御手段は、前記表示保存選択手段により前記選択基準が前記フレーム基準に設定された際、所定のフレームのみ表示および／あるいは保存し、それ以外のフレーム

表示および／あるいは保存しないように、画像生成手段および保存手段を制御することを特徴とする付記 5 に記載の走査型観察装置。

【0068】

5-3-1. 前記表示保存選択手段は、前記選択基準を前記フレーム基準に設定する際、前記所定のフレームを任意に設定可能であることを特徴とする付記 5-3 に記載の走査型観察装置。

5-4. 前記制御手段は、前記表示保存選択手段により前記選択基準が前記時間基準に設定された際、所定時間の間表示および／あるいは保存し、それ以外であれば表示および／あるいは保存しないように、画像生成手段および保存手段を制御することを特徴とする付記 5 に記載の走査型観察装置。

5-4-1. 前記表示保存選択手段は、前記選択基準を前記時間基準に設定する際、前記所定の時間を任意に設定可能であることを特徴とする付記 5-4 に記載の走査型観察装置。

【0069】

6. 前記表示保存選択手段は、前記同時保存データを、
前記通常内視鏡観察画像、
前記スケール、
前記任意のテキスト、
前記任意のカーソル、
のうちの少なくとも一つ以上を、選択可能に設定することを特徴とする付記 2 および付記 3 に記載の走査型観察装置。

7. 前記表示保存選択手段は、前記保存タイミングを、
前記制御手段から発生するスキャニング開始時および／あるいは停止時のタイミング、
静止画像の生成時あるいは生成の前後のタイミング、
前記制御手段から発生する前記光源の光出力開始時および／あるいは停止時のタイミング、
前記制御手段から発生するブレ補正実行時および／あるいは解除時のタイミング、
のうちのいずれか一つに、選択可能に設定することを特徴とする付記 2 に記載の走査型観察装置。

【0070】

8. 前記表示保存選択手段は、前記ブレ補正を、ブレ補正実行および解除のいずれかに切替可能に設定することを特徴とする付記 2 に記載の走査型観察装置。

9. 前記光源はレーザであることを特徴とする付記 1 に記載の走査型観察装置。

9-1. 前記レーザは半導体レーザであることを特徴とする付記 9 に記載の走査型観察装置。

10. 前記光学系は、光を伝送する光ファイバと、光を分離する光カップラと、光を対象に結像する少なくとも 1 個以上のレンズを含むことを特徴とする付記 1 に記載の走査型観察装置。

11. 前記光電変換手段は、フォトディテクタ（光検出器）からなることを特徴とする付記 1 に記載の走査型観察装置。

【0071】

12. 前記光電変換手段は、フォトマルチプライアチューブからなることを特徴とする付記 1 に記載の走査型観察装置。

13. 前記 A/D 変換器の諧調は少なくとも 8 bit 以上を有することを特徴とする付記 1 に記載の走査型観察装置。

14. 前記メモリは、大容量動画記録が可能なシネメモリであることを特徴とする付記 1 に記載の走査型観察装置。

15. 前記表示保存選択手段は、前記表示保存パラメータを設定するための入力デバイスを有することを特徴とする付記 1 に記載の走査型観察装置。

15-1. 前記入力デバイスは手で押下可能なキーボードであることを特徴とする付記 1

5に記載の走査型観察装置。

15-2. 前記入力デバイスは手で押下およびドラッグ可能なマウスあるいはトラックボールであることを特徴とする付記15に記載の走査型観察装置。

【0072】

16. 前記光学系は、光を伝送する光ファイバを挿通したシースの先端に、スキャニング手段を内蔵すると共に、光を観察対象に向けて集光する対物レンズを取り付けた対物ユニットを着脱可能にした硬質の筐体で覆われたプローブを含む付記1の走査型観察装置。

16-1. 前記プローブは、観察台に設けられた多関節を有するアームを設けたプローブ保持機構により3次元的に任意の位置に保持(固定)される付記16の走査型観察装置。

16-1-1. 前記プローブ保持機構は、観察対象を2次元的に任意の位置に固定する観察対象固定手段が設けてある付記16-1の走査型観察装置。

【図面の簡単な説明】

【0073】

【図1】 本発明の第1の実施の形態の光走査型観察装置の全体構成図。

【図2】 モニタの表示例を示す図。

【図3】 表示基準として領域基準とした場合の領域決定方法の説明図。

【図4】 表示/保存方法の設定から表示/保存処理までの全体の処理内容を示すフローチャート図。

【図5】 表示保存モードの設定の処理内容を示すフローチャート図。

【図6】 選択基準の設定の処理内容を示すフローチャート図。

【図7】 領域の設定処理の処理内容を示すフローチャート図。

【図8】 タイミングの設定の処理内容を示すフローチャート図。

【図9】 同時保存データの設定処理の処理内容を示すフローチャート図。

【図10】 各種のパラメータの設定により特定画像の表示や保存が選択設定できるパターンを示す表。

【図11】 表示保存モードが特定画像表示保存、選択基準が輝度(輝度値は150)、大きさが無効(OFF)、タイミングがスキャン、ブレ補正が無効(OFF)、同時保存データが通常内視鏡像及びスケールの場合の表示/保存処理の処理内容を示すフローチャート図。

【図12】 選択基準が輝度の場合の信号処理回路の構成を示すブロック図。

【図13】 タイミングがスキャンの場合の表示&保存開始/停止のタイミングチャート図。

【図14】 図11のパラメータの設定において、大きさのパラメータをONにした場合の処理内容を示すフローチャート図。

【図15】 表示保存モードが特定画像表示全画像保存、選択基準が領域、タイミングがフリーズ(静止画像表示)、ブレ補正が無効(OFF)、同時保存データがテキストの場合の処理内容を示すフローチャート図。

【図16】 図15の動作の場合のタイミングチャート図。

【図17】 表示保存モードが全画像表示特定画像保存、選択基準がフレーム、指定フレーム数が1-50フレーム、タイミングがフリーズ前後(タイミング位置は-10)、ブレ補正が無効(OFF)、同時保存データがカーソルの場合の処理内容を示すフローチャート図。

【図18】 図17の場合のフリーズ前後の場合の表示&保存開始のタイミングチャート図。

【図19】 フリーズ前後の場合の保存対象となるデータを示す説明図。

【図20】 表示保存モードが特定画像表示保存、選択基準が時間、指定時間が1000ms、タイミングがレーザ、ブレ補正が無効(OFF)、同時保存データが通常内視鏡像の場合の処理内容を示すフローチャート図。

【図21】 図20の場合の表示&保存開始/停止のタイミングチャート図。

【図22】 表示保存モードが全画像表示保存、タイミングがブレ補正、ブレ補正が有

効（ON）、同時保存データがスケールの場合の処理内容を示すフローチャート図。

【図 23】 図 22 の場合における表示&保存開始/停止のタイミングチャート図。

【図 24】 本発明の第 2 の実施の形態の光走査型観察装置の構成図。

【図 25】 光走査プローブの使用例を示す図。

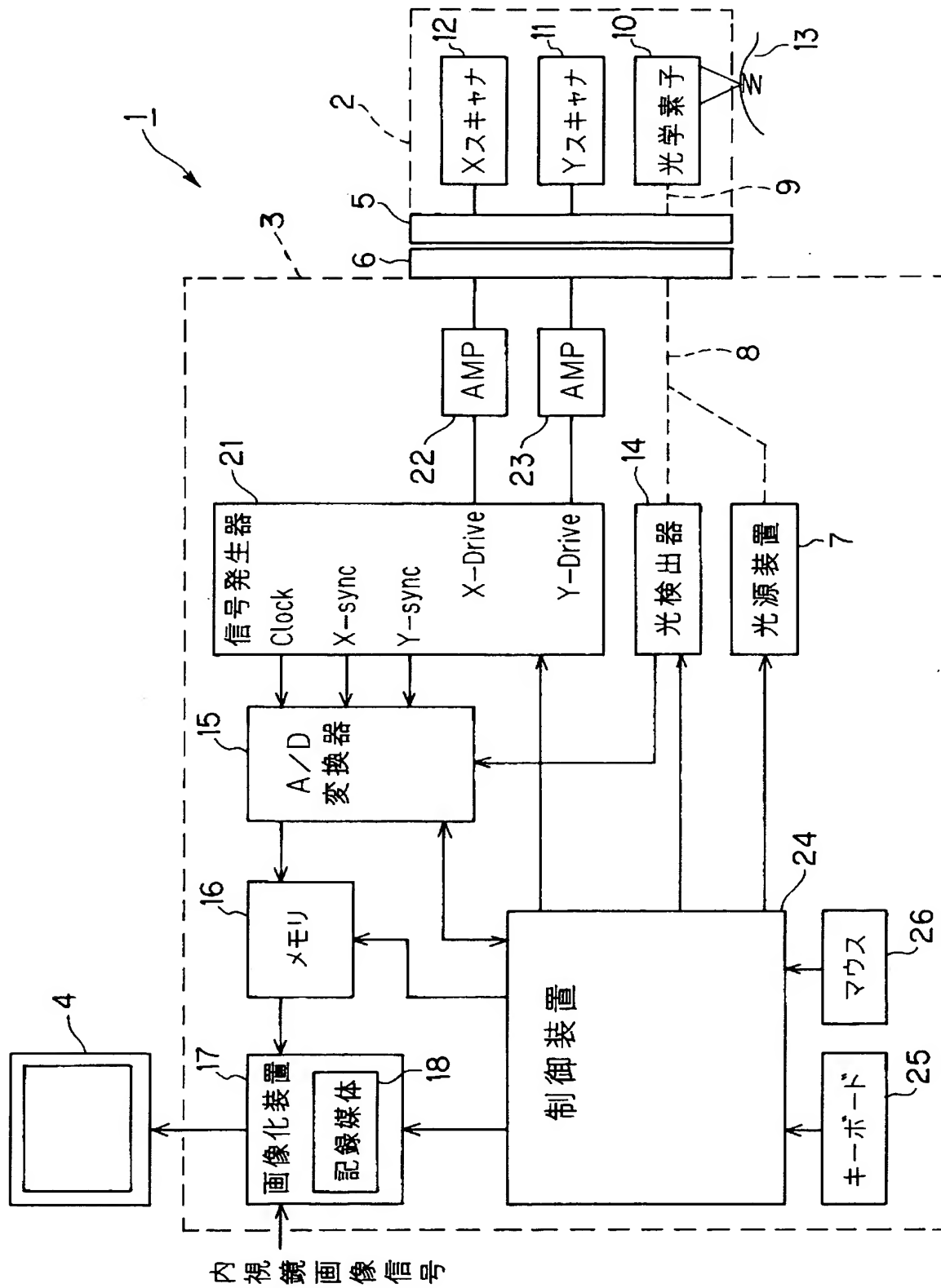
【符号の説明】

【0074】

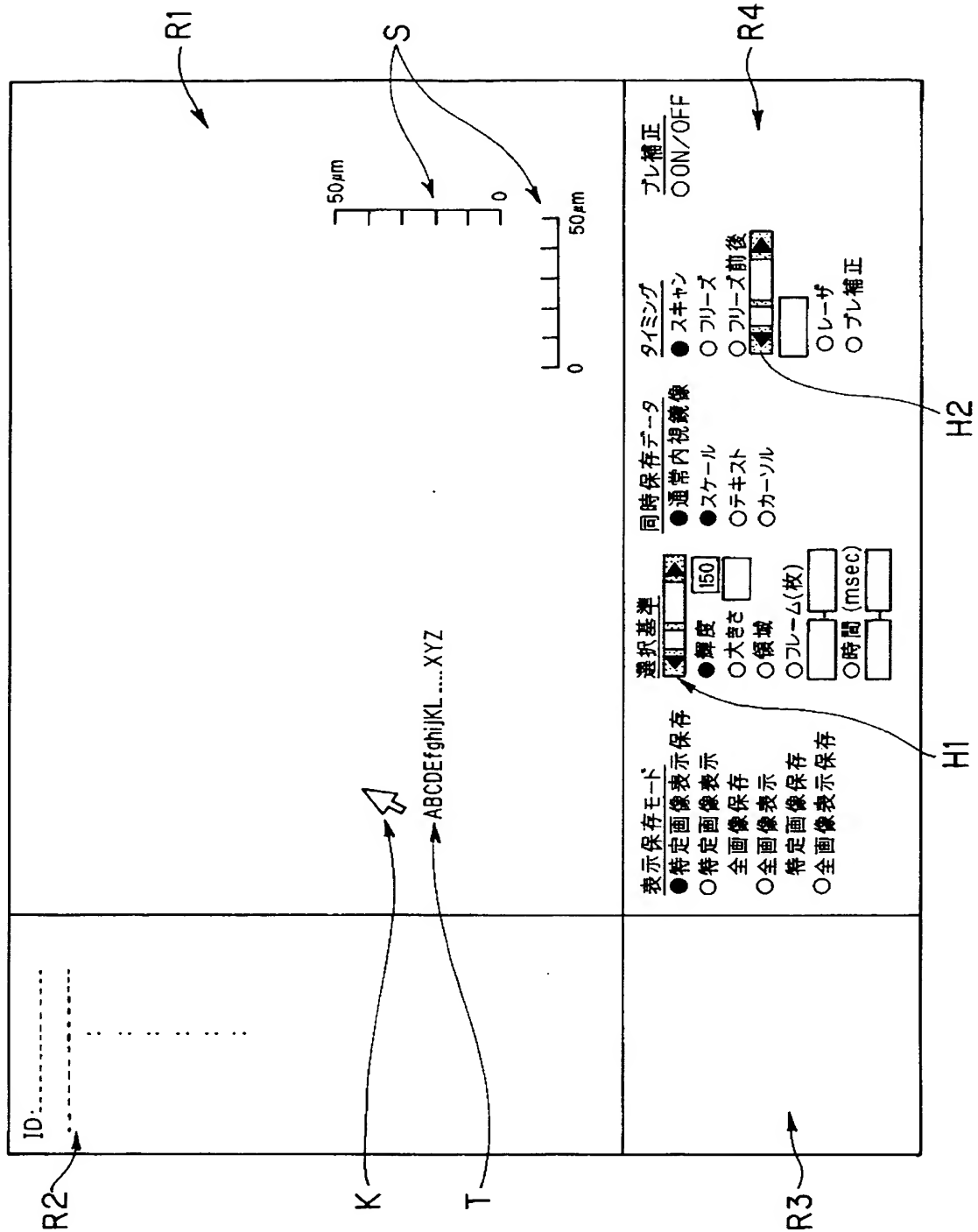
- 1…光走査型観察装置
- 2…光走査プローブ
- 3…観察装置
- 4…モニタ
- 5…コネクタ
- 7…光源装置
- 8、9…光ファイバ
- 10…光学素子
- 11…Xスキャナ
- 12…Yスキャナ
- 13…被検体
- 14…光検出器
- 15…A/D変換器
- 16…メモリ
- 17…画像化装置
- 18…記録媒体
- 21…信号発生器
- 22、23…アンプ
- 24…制御装置
- 25…キーボード
- 26…マウス
- R1…細胞観察画像表示領域
- R2…患者情報表示領域
- R3…通常内視鏡画像表示領域
- R4…表示保存パラメータ設定ウィンドウ

代理人 弁理士 伊藤 進

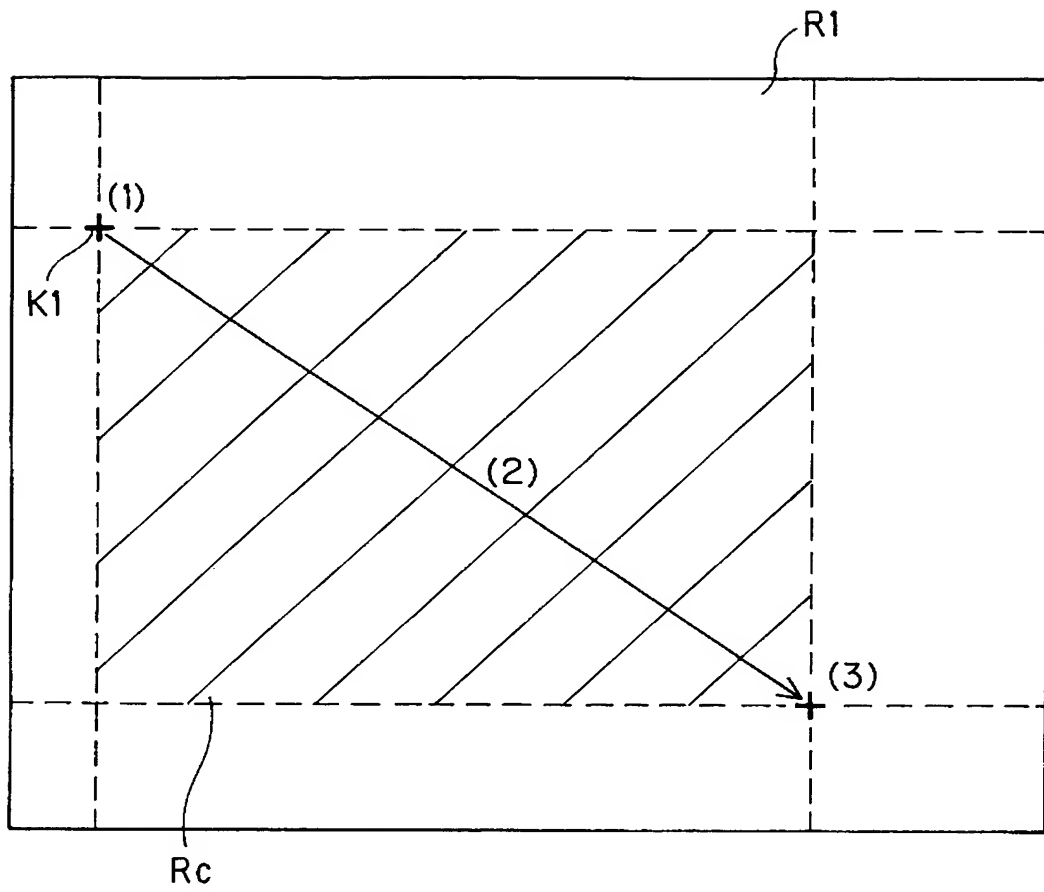
【書類名】 図面
【図1】



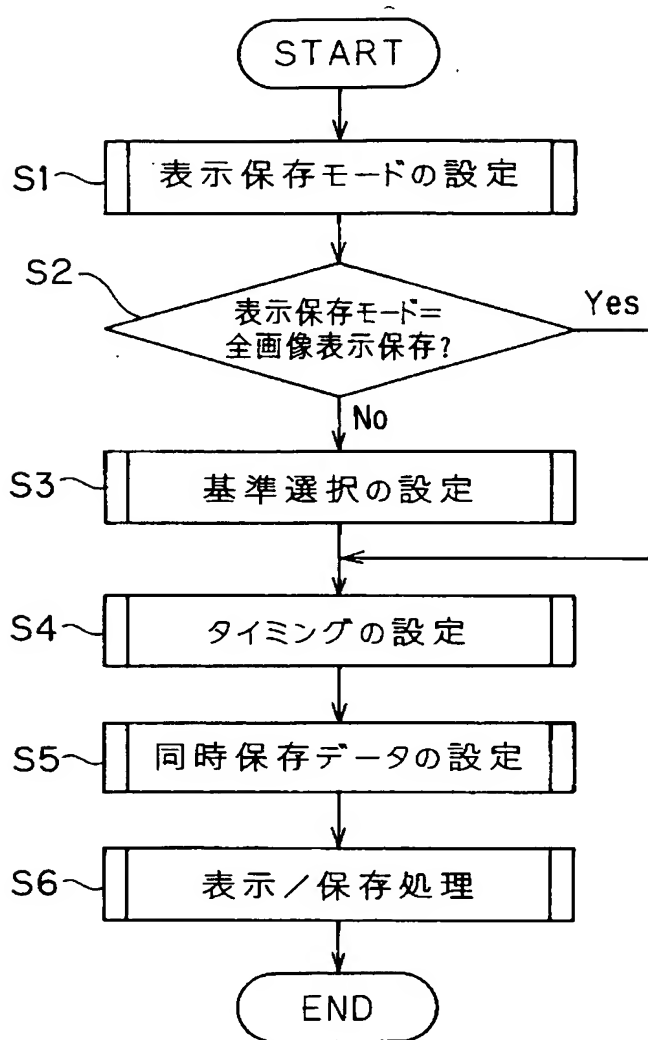
【図 2】



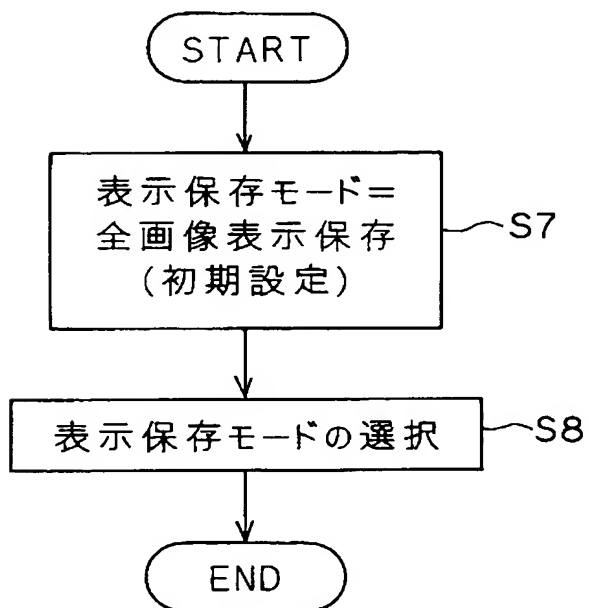
【図 3】



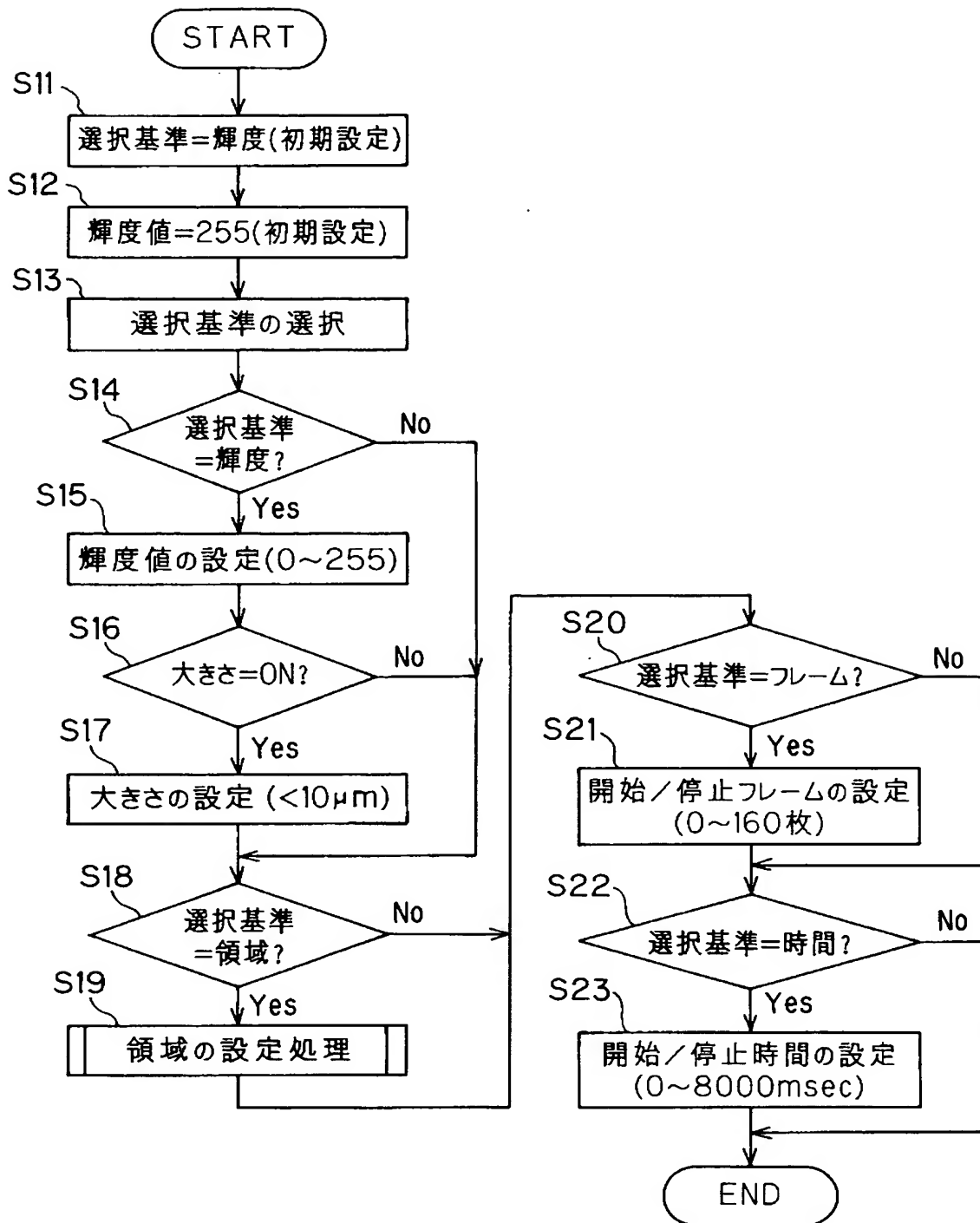
【図 4】



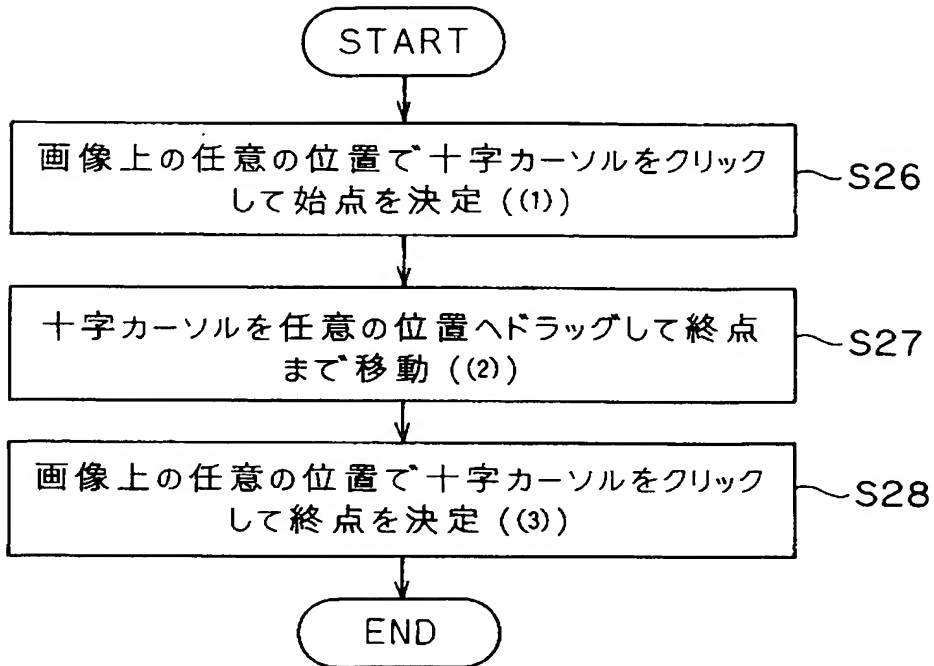
【図 5】



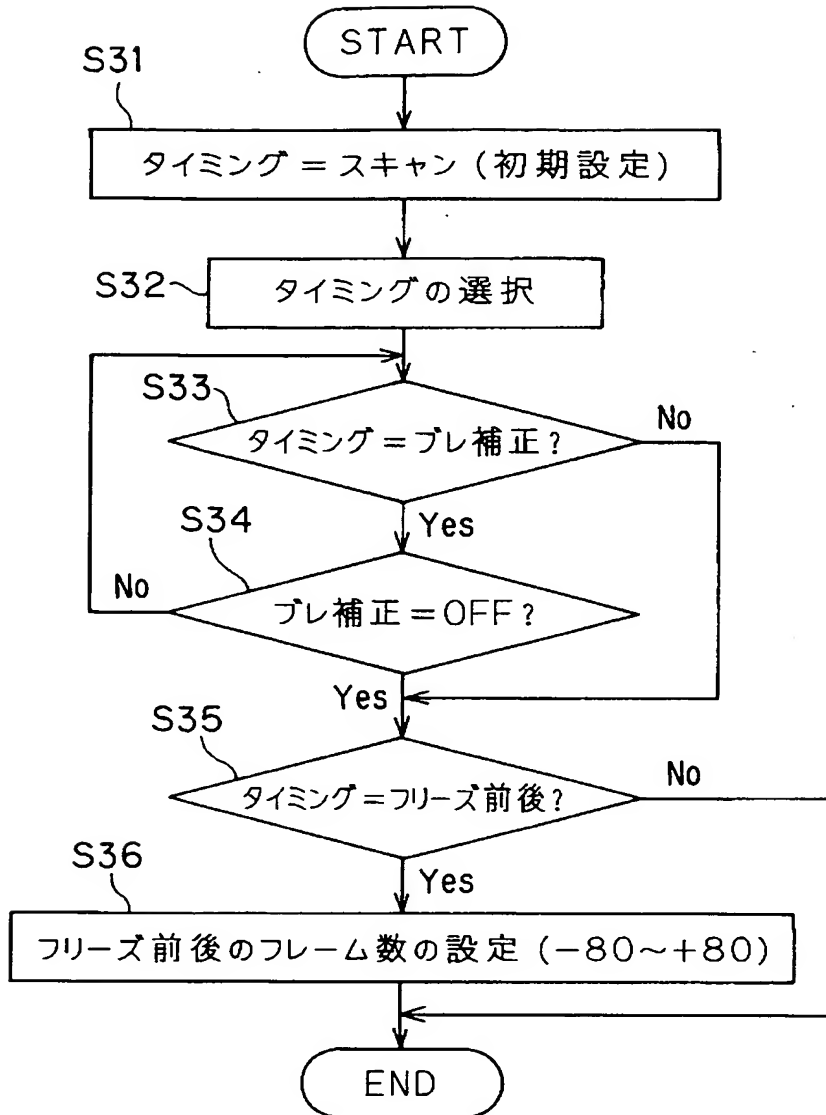
【図 6】



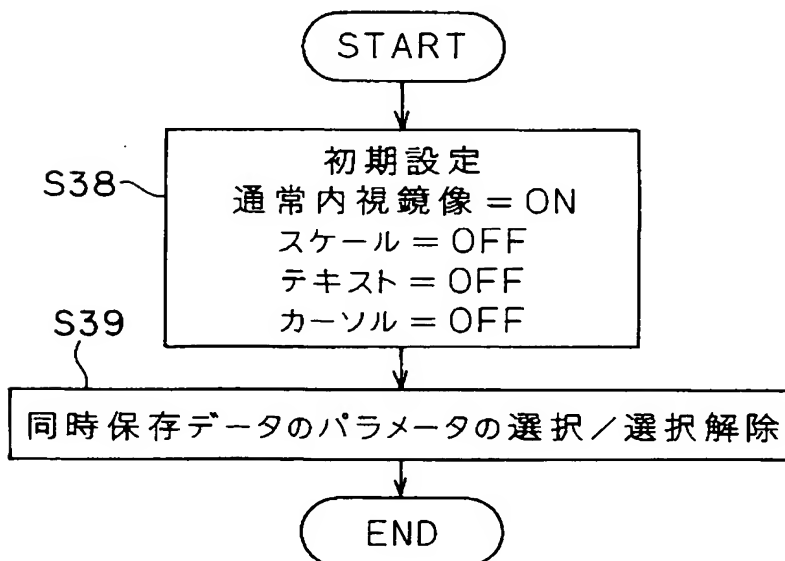
【図 7】



【図 8】



【図 9】

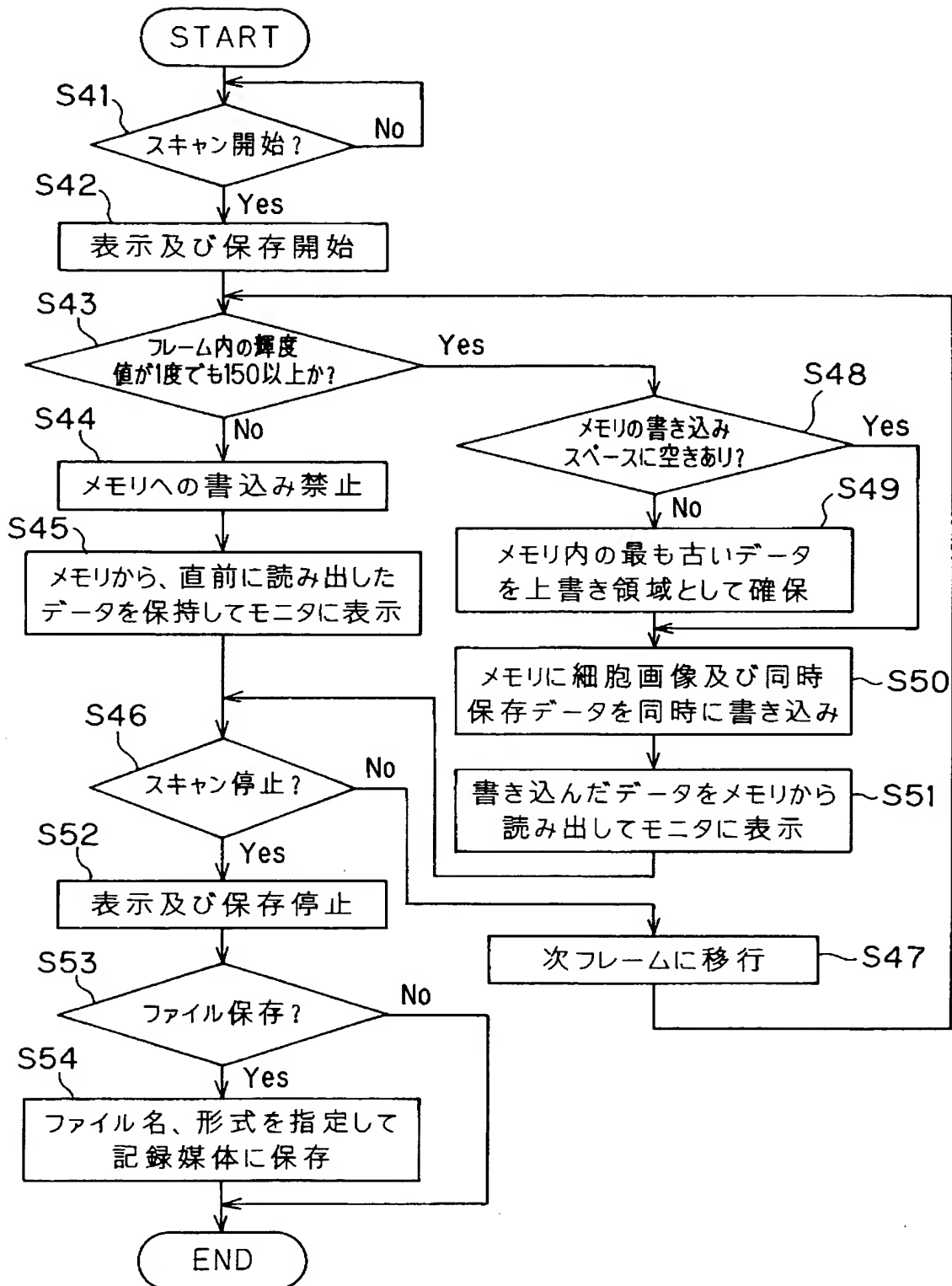


【図 10】

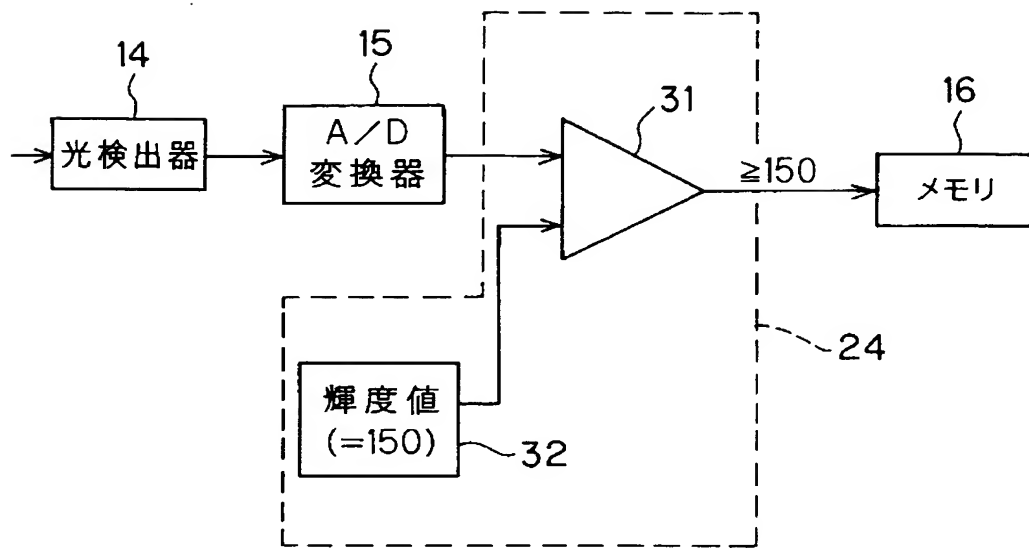
表 表示保存設定パターン

保存表示モード	選択基準	タイミング	ブレ防止	同時保存データ	場合の数	
特定画像表示保存	輝度	大きさ = ON	スキヤン	ON/OFF	通常内視鏡像 スケール テキスト カーソル	5
			フリーズ	ON/OFF		
			フリーズ前後	ON/OFF		
			レーザ	ON/OFF		
			ブレ防止	ON		
		大きさ = OFF	スキヤン	ON/OFF	通常内視鏡像 スケール テキスト カーソル	5
			フリーズ	ON/OFF		
			フリーズ前後	ON/OFF		
			レーザ	ON/OFF		
			ブレ防止	ON		
	領域		スキヤン	ON/OFF	通常内視鏡像 スケール テキスト カーソル	5
			フリーズ	ON/OFF		
			フリーズ前後	ON/OFF		
			レーザ	ON/OFF		
			ブレ防止	ON		
	フリーズ		スキヤン	ON/OFF	通常内視鏡像 スケール テキスト カーソル	5
			フリーズ	ON/OFF		
			フリーズ前後	ON/OFF		
			レーザ	ON/OFF		
			ブレ防止	ON		
	時間		スキヤン	ON/OFF	通常内視鏡像 スケール テキスト カーソル	5
			フリーズ	ON/OFF		
			フリーズ前後	ON/OFF		
			レーザ	ON/OFF		
			ブレ防止	ON		
特定画像表示全画像保存	輝度	大きさ = ON	スキヤン	ON/OFF	通常内視鏡像 スケール テキスト カーソル	5
			フリーズ	ON/OFF		
			フリーズ前後	ON/OFF		
			レーザ	ON/OFF		
			ブレ防止	ON		
		大きさ = OFF	スキヤン	ON/OFF	通常内視鏡像 スケール テキスト カーソル	5
			フリーズ	ON/OFF		
			フリーズ前後	ON/OFF		
			レーザ	ON/OFF		
			ブレ防止	ON		
	領域		スキヤン	ON/OFF	通常内視鏡像 スケール テキスト カーソル	5
			フリーズ	ON/OFF		
			フリーズ前後	ON/OFF		
			レーザ	ON/OFF		
			ブレ防止	ON		
	フリーズ		スキヤン	ON/OFF	通常内視鏡像 スケール テキスト カーソル	5
			フリーズ	ON/OFF		
			フリーズ前後	ON/OFF		
			レーザ	ON/OFF		
			ブレ防止	ON		
	時間		スキヤン	ON/OFF	通常内視鏡像 スケール テキスト カーソル	5
			フリーズ	ON/OFF		
			フリーズ前後	ON/OFF		
			レーザ	ON/OFF		
			ブレ防止	ON		
全画像表示特定画像保存	輝度	大きさ = ON	スキヤン	ON/OFF	通常内視鏡像 スケール テキスト カーソル	5
			フリーズ	ON/OFF		
			フリーズ前後	ON/OFF		
			レーザ	ON/OFF		
			ブレ防止	ON		
		大きさ = OFF	スキヤン	ON/OFF	通常内視鏡像 スケール テキスト カーソル	5
			フリーズ	ON/OFF		
			フリーズ前後	ON/OFF		
			レーザ	ON/OFF		
			ブレ防止	ON		
	領域		スキヤン	ON/OFF	通常内視鏡像 スケール テキスト カーソル	5
			フリーズ	ON/OFF		
			フリーズ前後	ON/OFF		
			レーザ	ON/OFF		
			ブレ防止	ON		
	フリーズ		スキヤン	ON/OFF	通常内視鏡像 スケール テキスト カーソル	5
			フリーズ	ON/OFF		
			フリーズ前後	ON/OFF		
			レーザ	ON/OFF		
			ブレ防止	ON		
	時間		スキヤン	ON/OFF	通常内視鏡像 スケール テキスト カーソル	5
			フリーズ	ON/OFF		
			フリーズ前後	ON/OFF		
			レーザ	ON/OFF		
			ブレ防止	ON		
全画像表示保存	設定不可	スキヤン	ON/OFF	通常内視鏡像 スケール テキスト カーソル	5	
		フリーズ	ON/OFF			
		フリーズ前後	ON/OFF			
		レーザ	ON/OFF			
		ブレ防止	ON			
計					80	

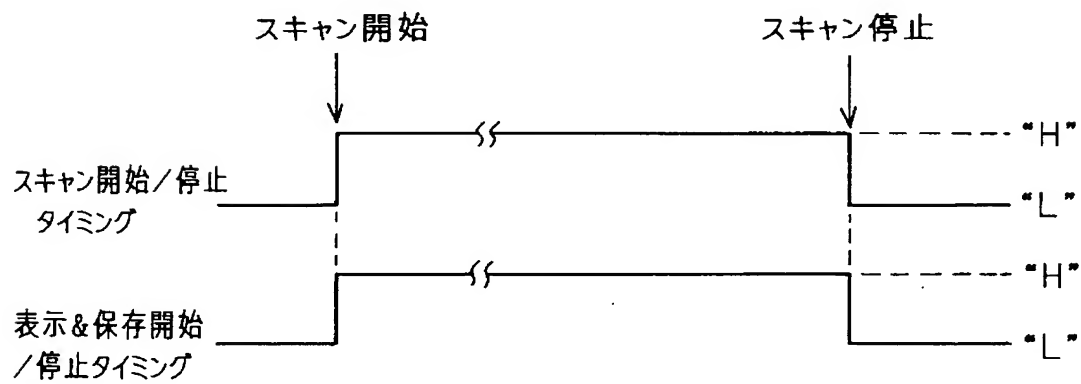
【図 11】



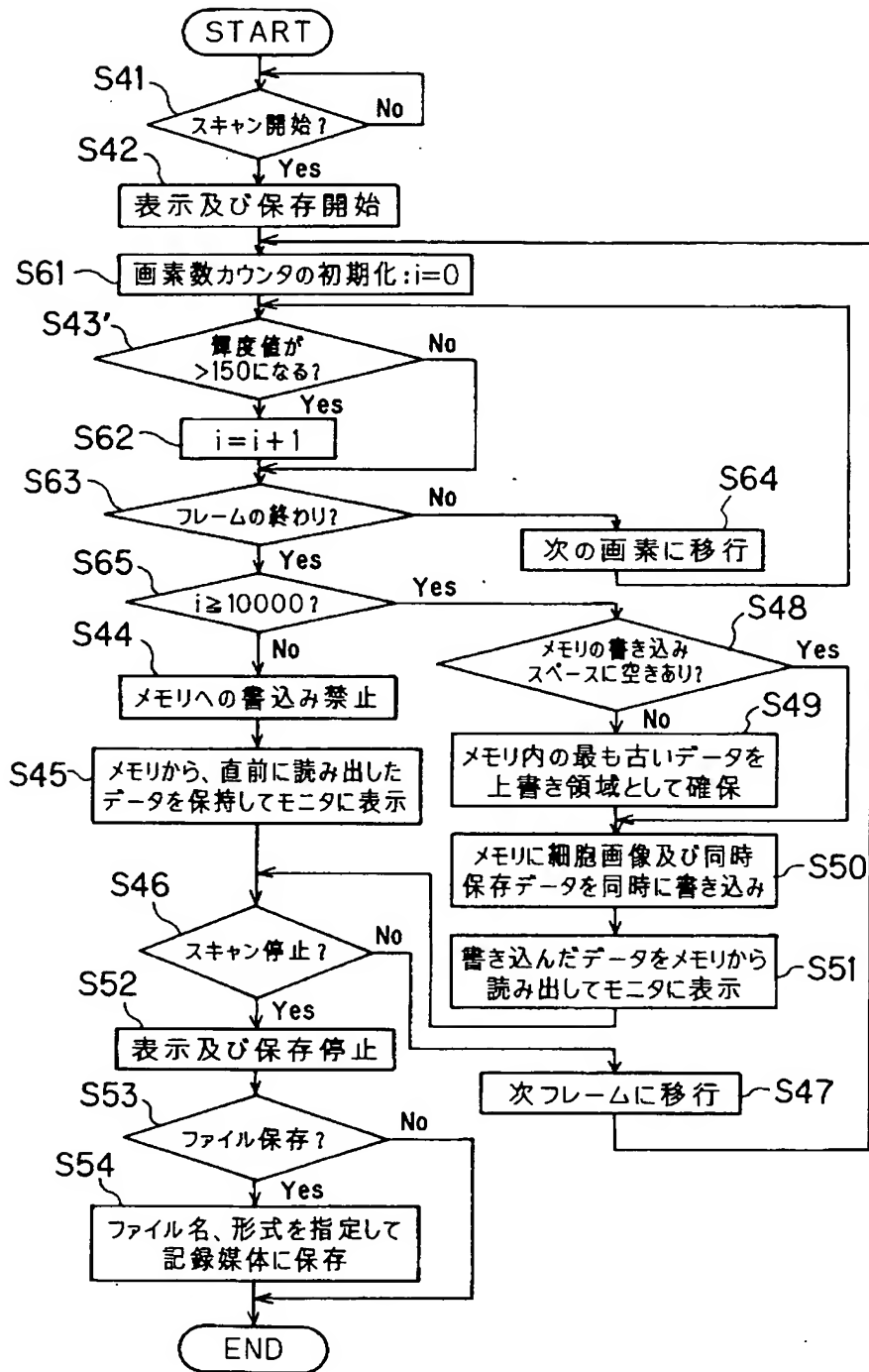
【図 12】



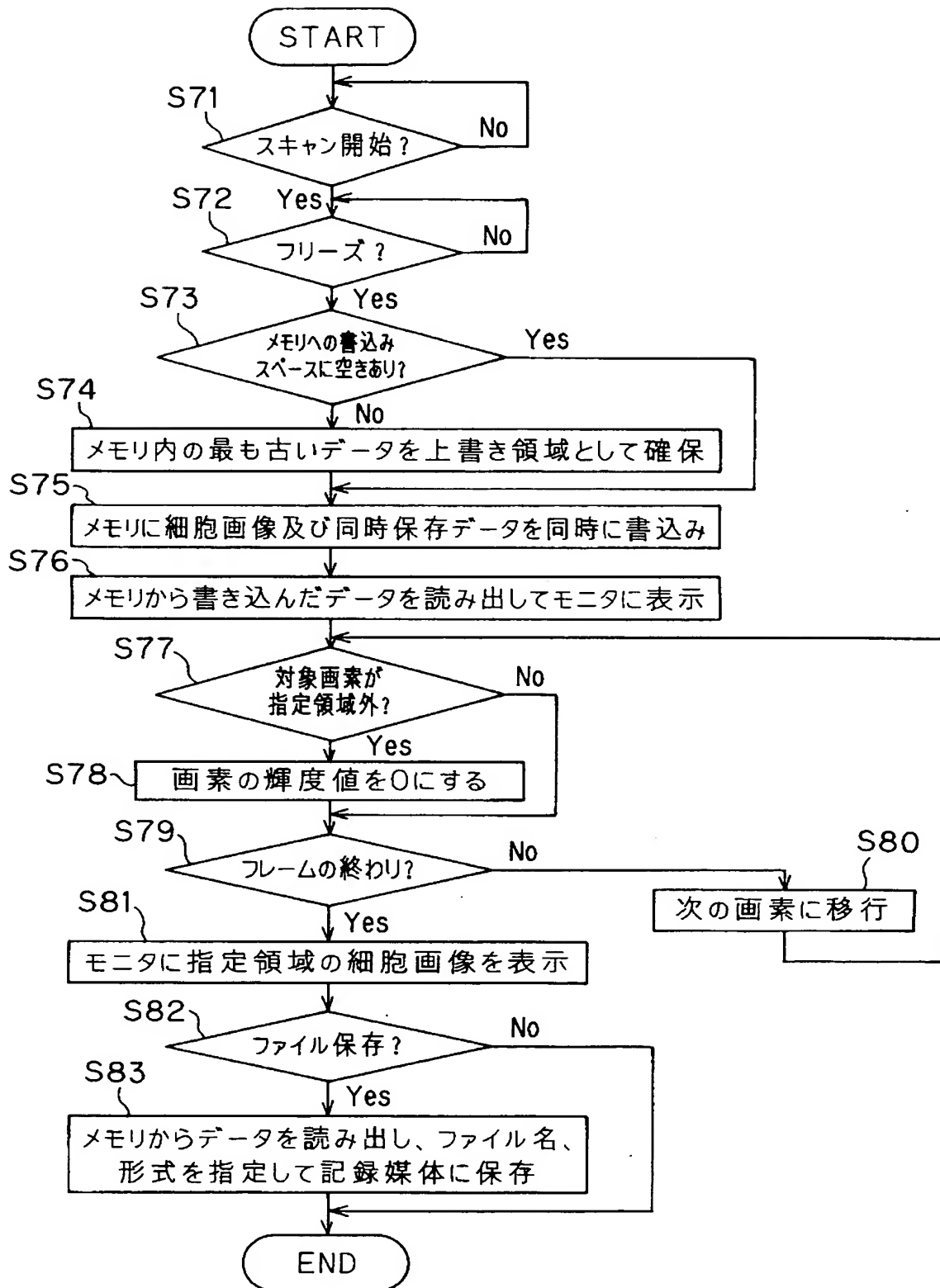
【図 13】



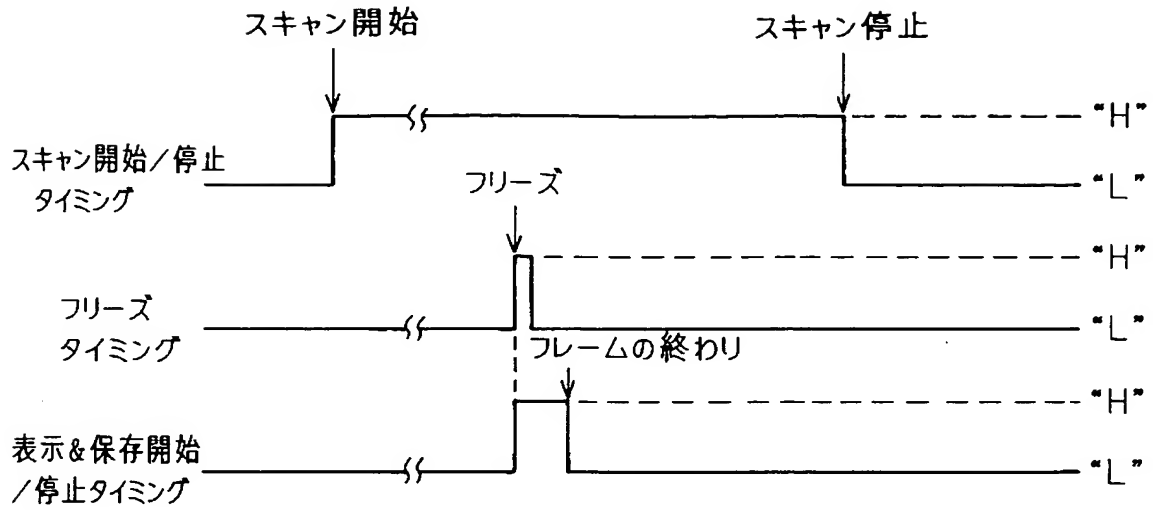
【図 14】



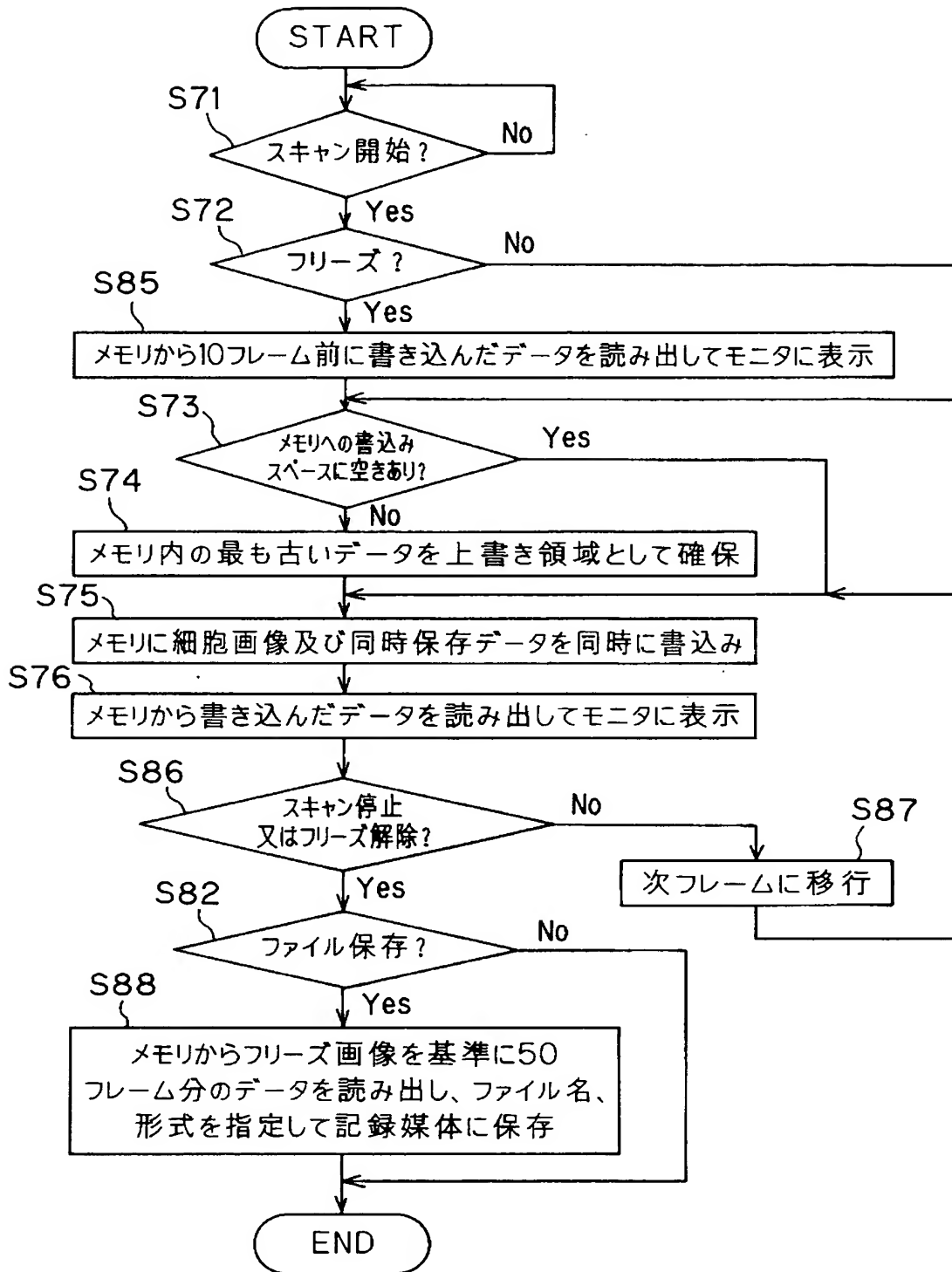
【図15】



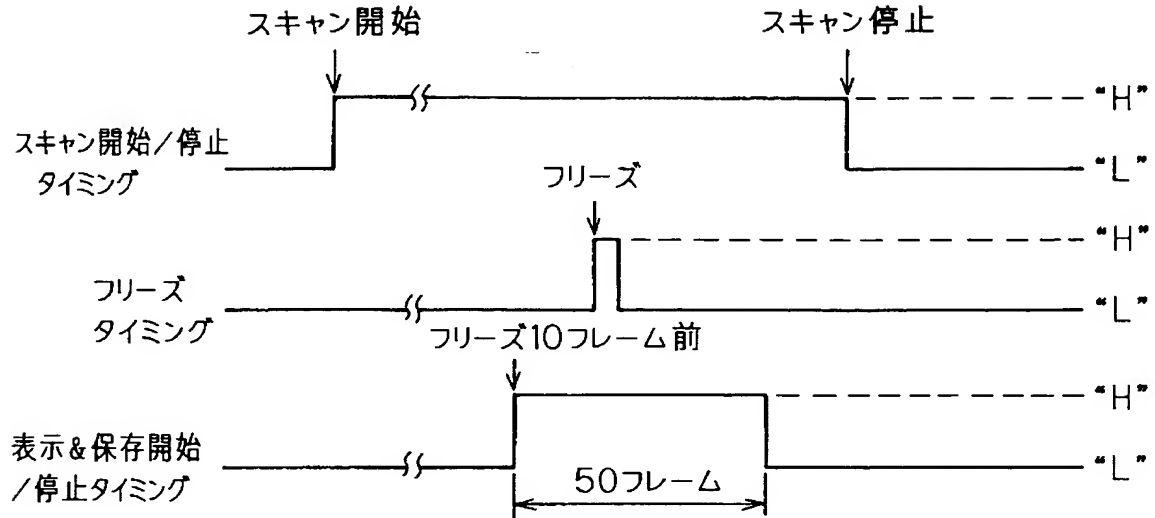
【図 16】



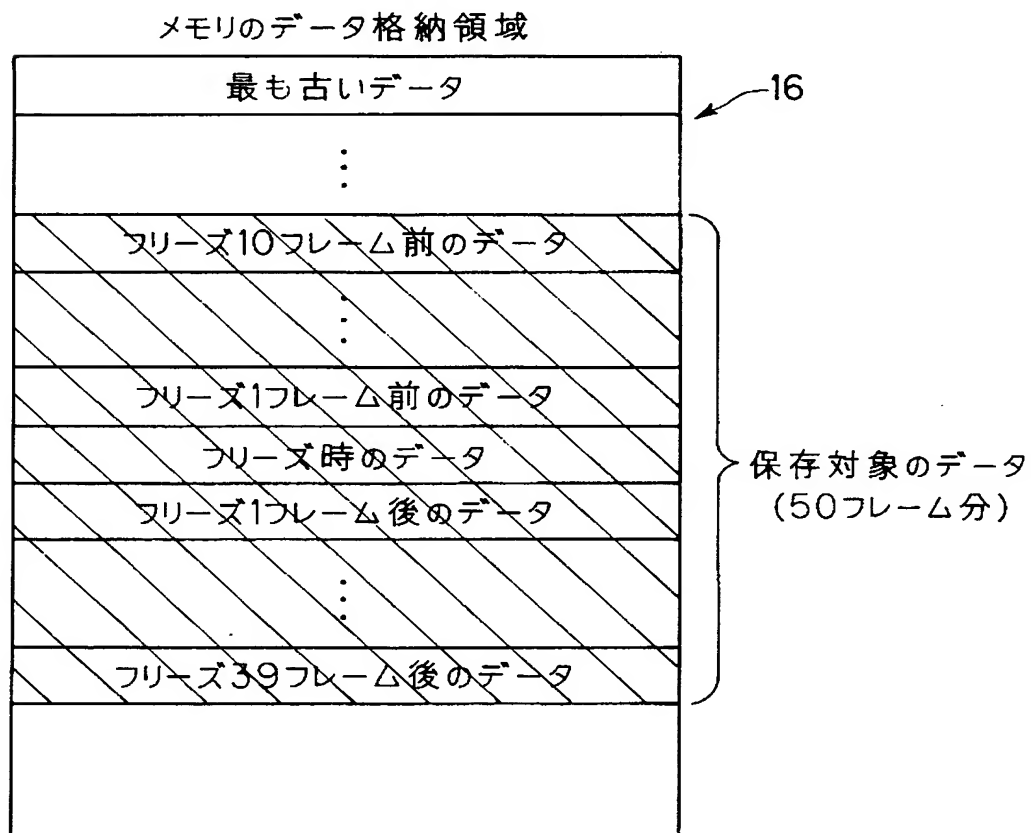
【図 17】



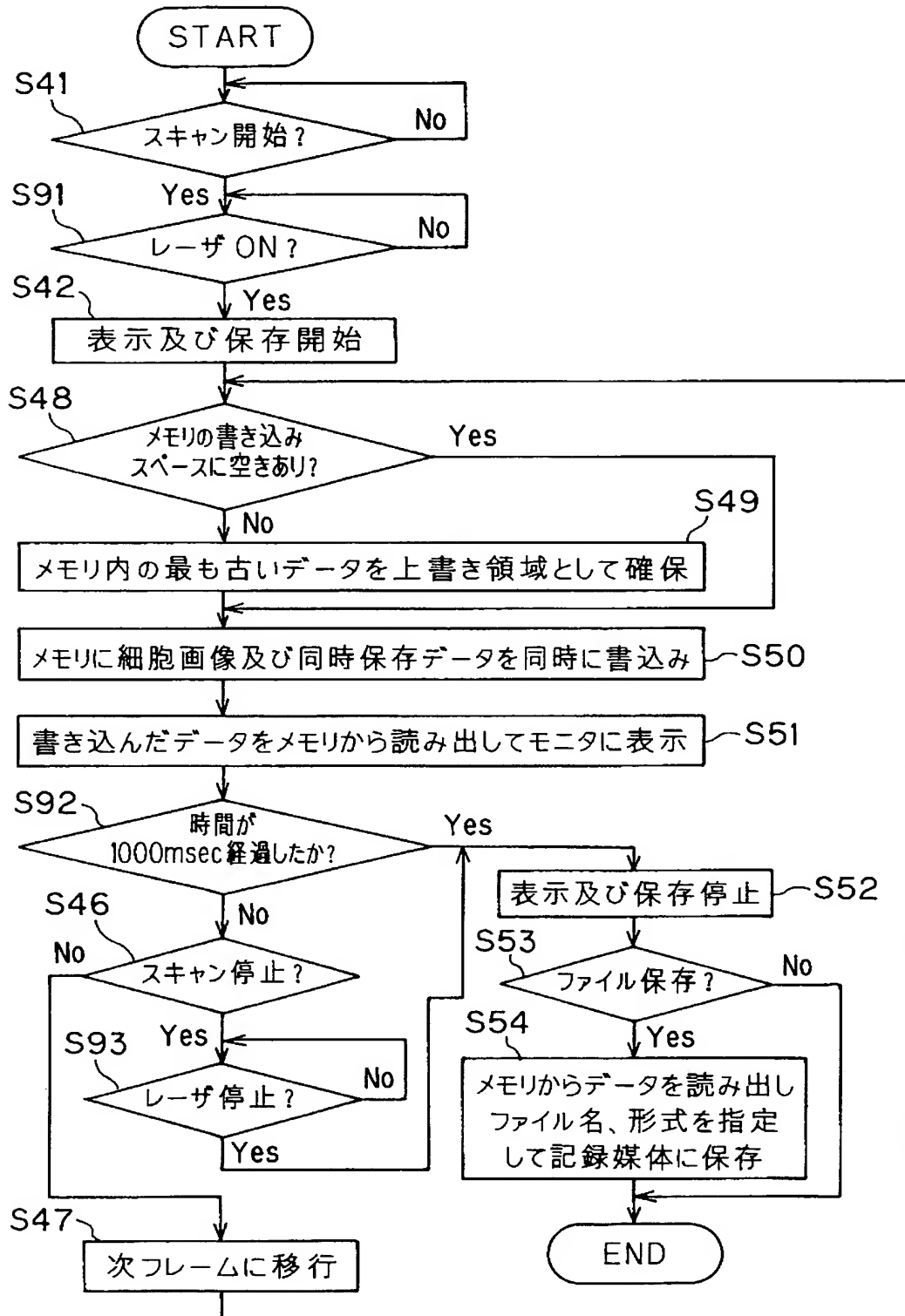
【図 18】



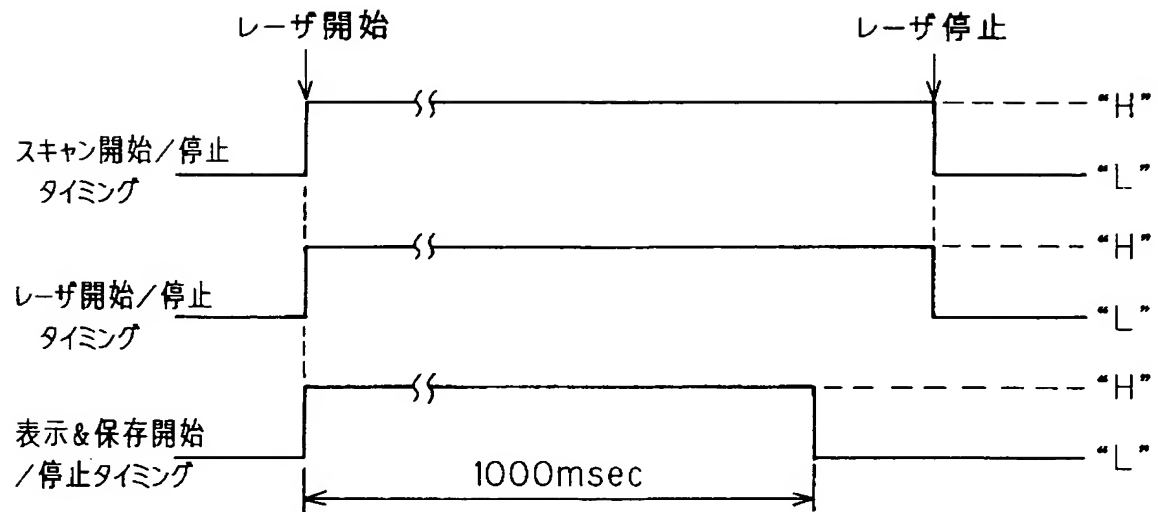
【図 19】



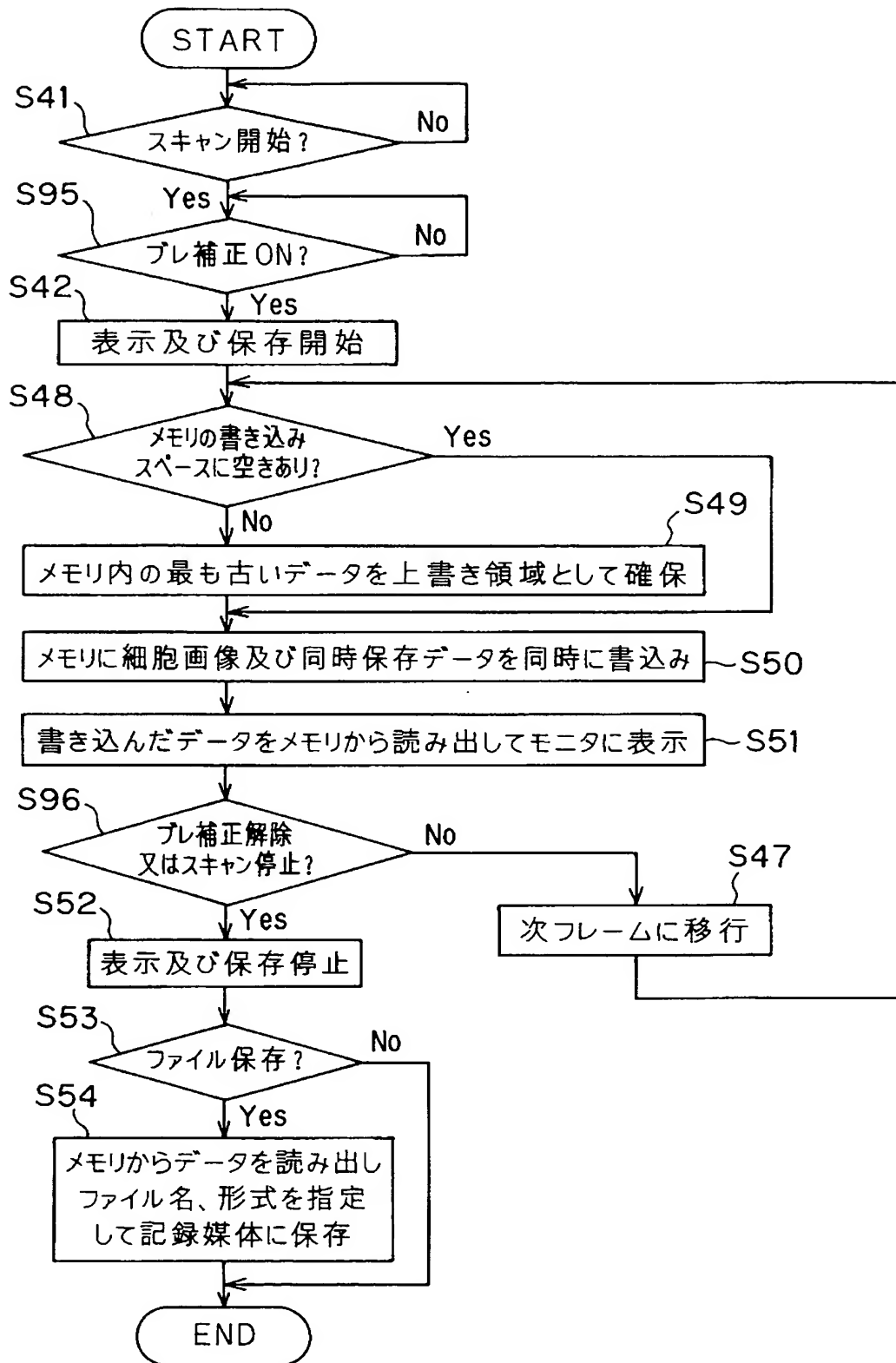
【図 20】



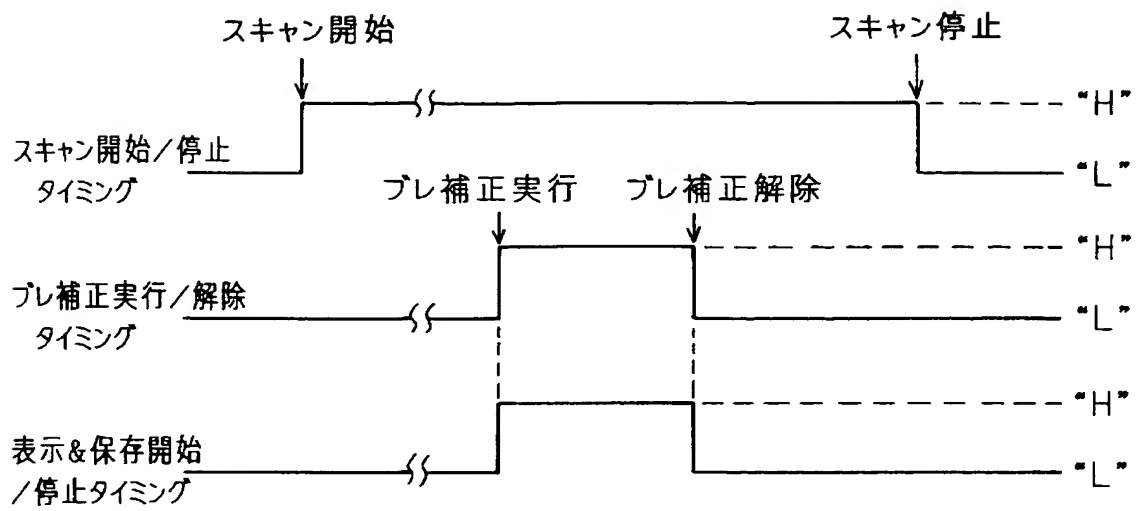
【図 2 1】



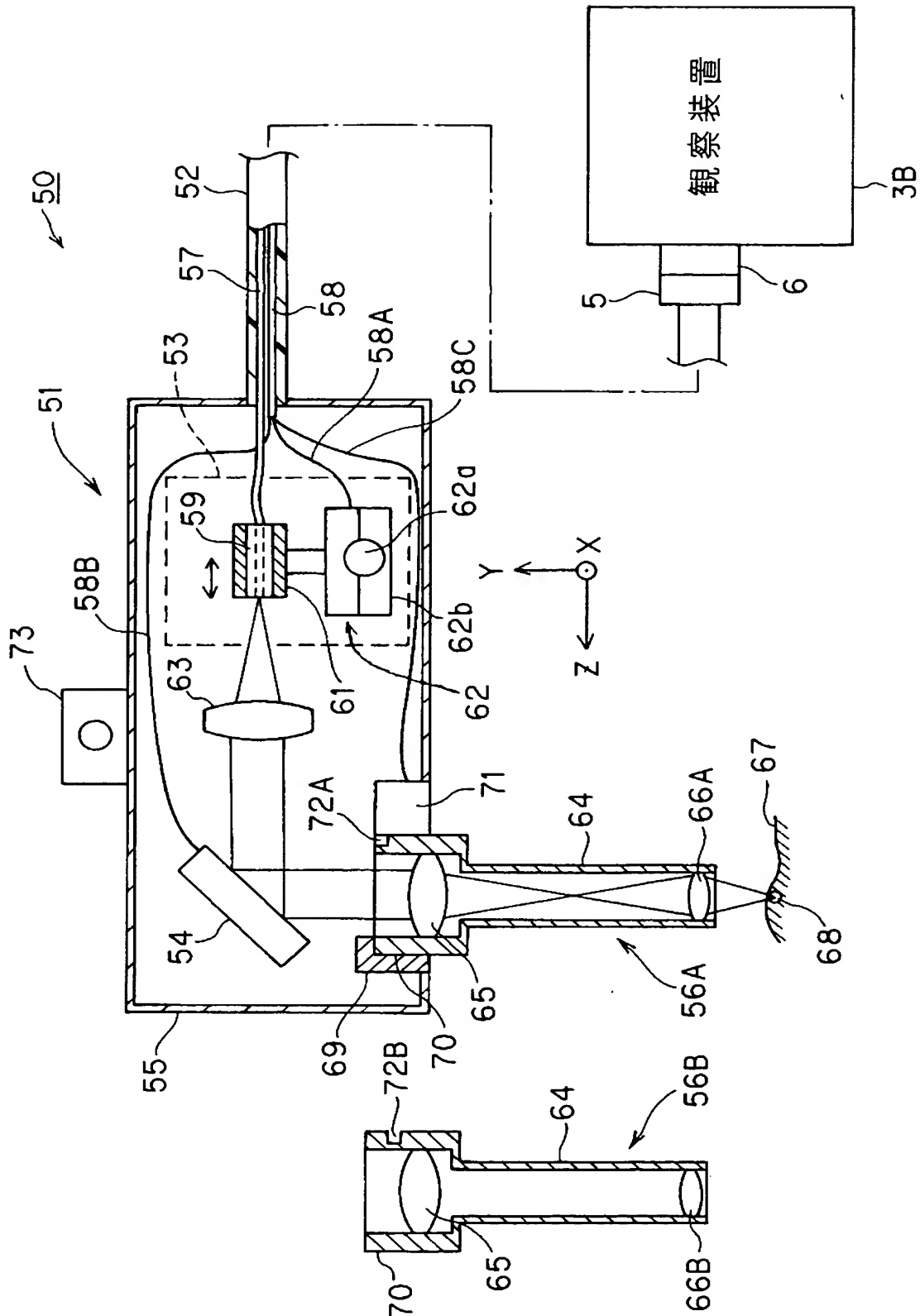
【図 22】



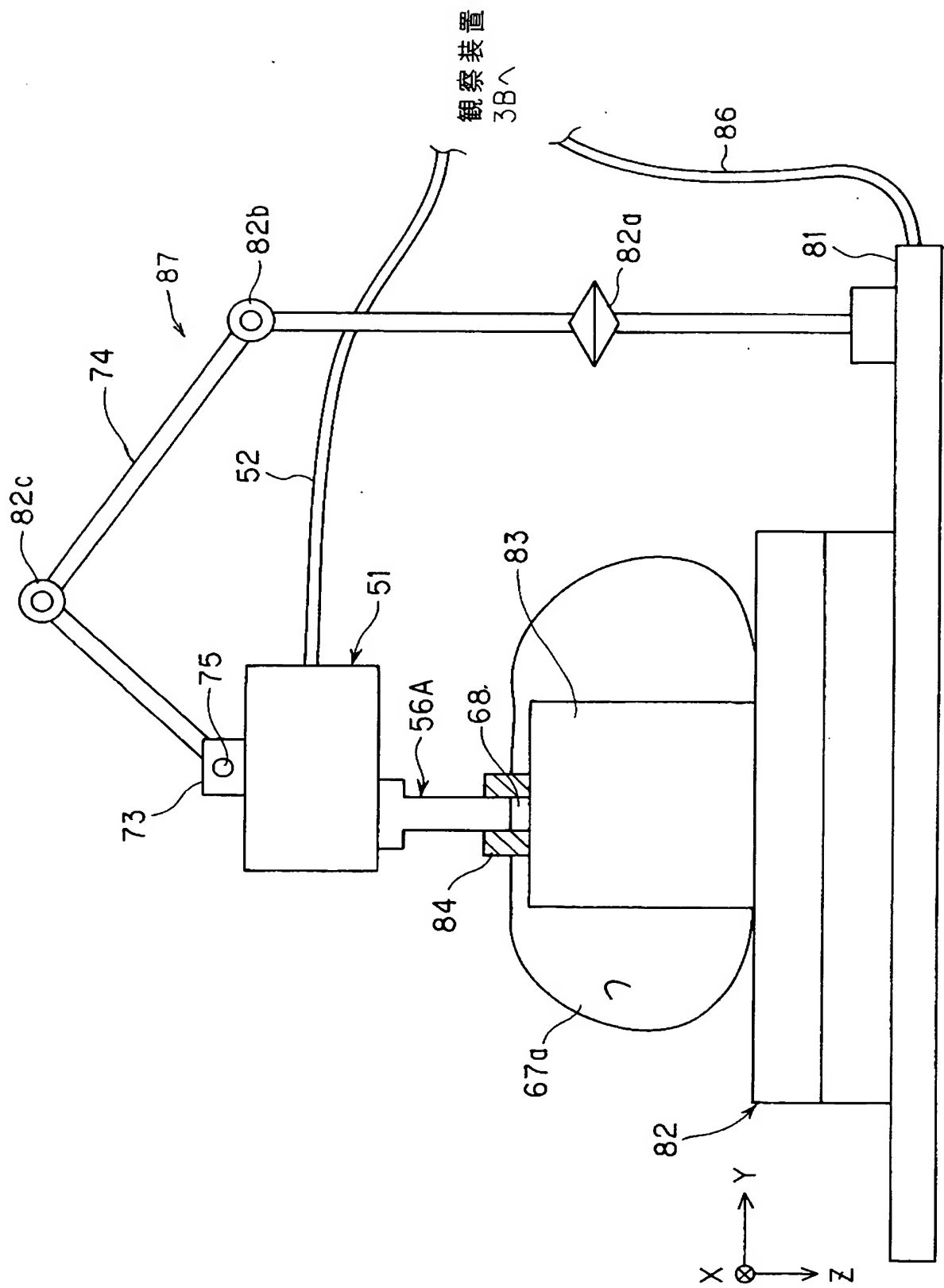
【図 23】



【図 24】



【図 25】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 操作性の良い画像記録ができる光走査型観察装置を提供する。

【解決手段】 スキャナを内蔵した光走査プローブを用い、観察対象物側からの戻り光を受光し、光電変換してモニタの表示面における細胞観察画像表示領域 R 1 に細胞観察画像を表示し、その下側の表示保存パラメータ設定ウィンドウ R 4 には表示や保存の条件を決定する表示保存パラメータを表示し、簡単にマウス等で選択設定できるようにして、ユーザが設定した条件を満たすような所望の画像のみを記録（保存）できるように操作性を向上した。

【選択図】 図 1

特願 2 0 0 3 - 3 1 7 3 8 0

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 0 0 0 3 7 6]

1. 変更年月日

1 9 9 0 年 8 月 2 0 日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都渋谷区幡ヶ谷 2 丁目 4 3 番 2 号

氏 名

オリンパス光学工業株式会社